エ 学び合いの実施（「学び合いの場」「SDGs 社会教育研究会 WG」）

（ア） 学び合いの場①の開催

①イベント名

- ＜ESD for 2030 学び合いプロジェクト＞地域づくりのための気候変動社会教育
  学び合いの場①「気候変動教育とは」

②日時

- 2023 年８月 29 日（火）16：00～18：00

③開催方法

- オンライン（zoom）

④主催

- 中部地方 ESD 活動支援センター

⑤参加者

- 35 件（zoom 接続数／登壇者・事務局含む）

⑥プログラム

〇ごあいさつ
〇講演「今求められる気候変動教育」
武蔵野大学工学部サステナビリティ学科 教授 白井 信雄 氏
〇講演「気候変動教育戦略の構築と構造の可視化」
東京都市大学大学院環境情報学研究科 教授 佐藤 真久 氏
〇ディスカッション
進行：中部地方 ESD 活動支援センター 原 理史

（イ） 学び合いの場②の開催

①イベント名

- ＜ESD for 2030 学び合いプロジェクト＞地域づくりのための気候変動社会教育
  学び合いの場②「気候変動教育の実践」

②日時

- 2023 年９月４日（月）16：00～18：00

③開催方法

- オンライン（zoom）

④主催等

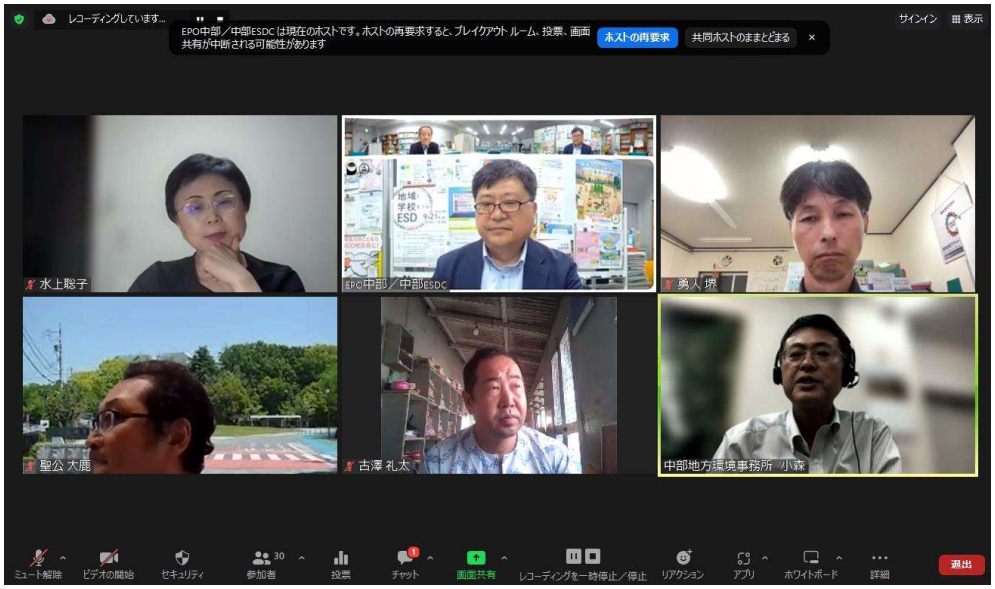
- 主催：中部地方 ESD 活動支援センター

⑤参加者

- 33 件（zoom 接続数／登壇者・事務局含む）

⑥プログラム

○ごあいさつ
○事例報告「流域圏 ESD と気候変動教育」
　中部大学国際 ESD・SDGs センター 准教授 古澤 礼太 氏
○事例報告「気候変動教育としての流域治水」
　一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PEC とやま) 事務局長 堺 勇人 氏
○事例報告「次世代につなぐ ESD の可能性ーその方法論」
　アルマス・バイオコスモス研究所 代表 水上 聡子 氏
○ディスカッション
　進行：中部地方 ESD 活動支援センター 原 理史
　コメンテーター：愛知教育大学教育学部 教授 大鹿 聖公 氏



（ウ） 第１回 SDGs 社会教育研究会ＷＧ

①日時

- 2023 年６月 14 日（水）13：30～16：30

②会場

- 富山県民会館 608 号室（富山県富山市）

③出席者

- ６名

古澤 礼太	中部大学国際 ESD/SDGs センター准教授、中部 ESD 拠点協議会事務局長
水上 聡子	EPO 中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表
堺　勇人	EPO 中部運営委員、一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PEC とやま)事務局長
原　理史	中部地方 ESD 活動支援センター、中部大学国際 ESD/SDGs センター研究員（非常勤）
縄野 正衡	オブザーバー　環境省中部地方環境事務所環境対策課長補佐
清本　三郎	事務局　中部地方環境パートナーシップオフィス　統括

④協議項目

１．昨年度成果と今年度計画

２．ワークブックニーズ検討のためのペルソナワークショップ

・シナリオ１：問題意識のある企業の担当者

・シナリオ２：地域の公 共施設で住民へのアウトリーチを命じられた担当者

・シナリオ３：課題を抱えている自治会の役員

３．その他

（エ） 第２回 SDGs 社会教育研究会ＷＧ

①日時

- 2023 年 10 月 24 日（火）13：30～16：30

②会場

- 福井市地域交流プラザ　研修室 608（福井県福井市）

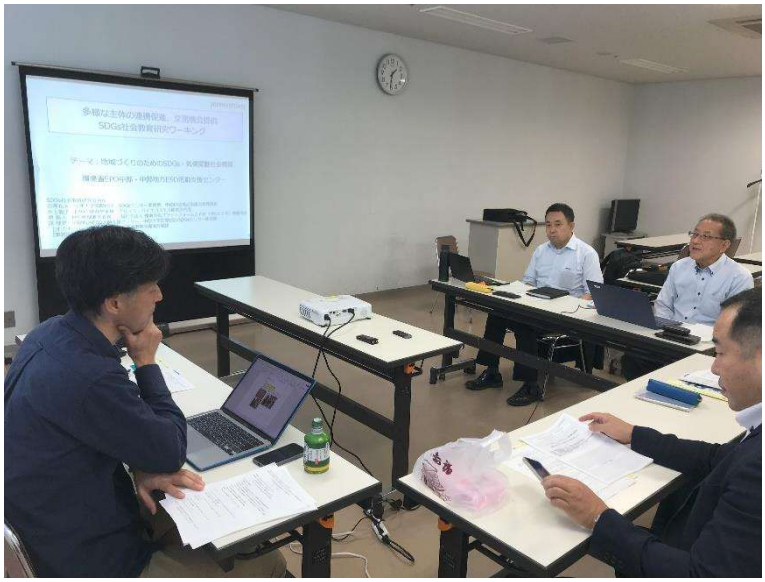
③出席者

- ６名

古澤 礼太	中部大学国際 ESD/SDGs センター准教授、中部 ESD 拠点協議会事務局長
水上 聡子	EPO 中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表
堺　勇人	EPO 中部運営委員、一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PEC とやま)事務局長
原　理史	中部地方 ESD 活動支援センター、中部大学国際 ESD/SDGs センター研究員（非常勤）
縄野 正衡	オブザーバー　環境省中部地方環境事務所環境対策課長補佐
清本　三郎	事務局　中部地方環境パートナーシップオフィス　統括

④協議項目

〇ペルソナワークショップの結果、学び合いの場①と②の結果
〇ワークブックのデザインと内容
〇実践セミナーの企画



（オ） 第３回 SDGs 社会教育研究会ＷＧ

①日時

- 2023 年 11 月 24 日（金）12：30～15：00

②会場

- 中部大学中部高等学術研究所リサーチセンター共同利用共同研究室（愛知県春日井市）

③出席者

- ７名

古澤　礼太	中部大学国際 ESD/SDGs センター准教授、中部 ESD 拠点協議会事務局長
水上　聡子	EPO 中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表
堺　　勇人	EPO 中部運営委員、一般社団法人環境市民プラットフォームとやま（PEC とやま）事務局長
原　　理史	中部地方 ESD 活動支援センター、中部大学国際 ESD/SDGs センター研究員（非常勤）
縄野　正衡	オブザーバー、環境省中部地方環境事務所　環境対策課長補佐
清本　三郎	事務局　中部地方環境パートナーシップオフィス　統括
富田　夏子	事務局

④協議項目

〇これまでの実践状況・実績に関する質疑・議論
〇ワークブックの議論
〇実践セミナーと全国フォーラム
〇その他

オ 実践活動の開催

①イベント名

- 地域づくりのための気候変動社会教育
  実践セミナー 食べ物が変わる？！気候変動と私たちの暮らし

②日時

- 2023 年 11 月 25 日（土）10：00～16：00

③会場

- 鬼崎漁港・鬼崎漁業協同組合会議室（愛知県常滑市）

④主催等

- 主催：中部地方 ESD 活動支援センター（環境省 EPO 中部）
- 共催：中部 ESD 拠点協議会（事務局：中部大学）

⑤参加者

- 43 名（一般参加 27 名、登壇者・関係者・事務局 16 名）

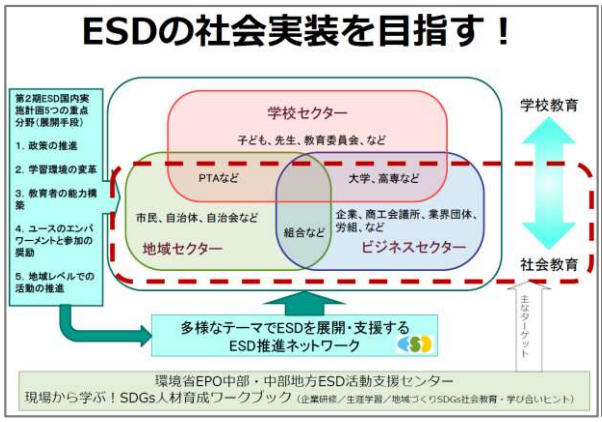
⑥プログラム

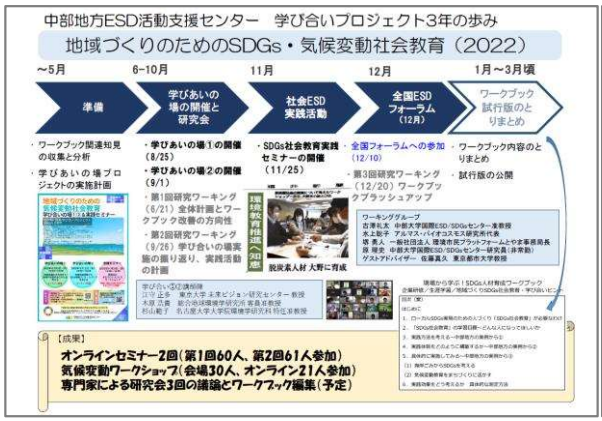
○あいさつ
○話題提供：「森里川海からとれる食、気候変動でどう変わる？」
　農林水産省東海農政局企画調整室長 井上 俊樹 氏
○話題提供：「伊勢湾三河湾の水産資源の移り変わり」
　愛知県水産試験場漁業生産研究所 主任研究員 植村 宗彦 氏
○話題提供：「水産業の現場から、鬼崎漁業協同組合」
　鬼崎漁業協同組合 参事 平野 正樹 氏
○話題提供：「気候変動影響と適応対策」
　東海学園大学 教授 杉山 範子 氏
○昼食と現地視察　海苔養殖関連施設等
　コーディネーター：中部 ESD 拠点・サステナ政策塾 古澤 礼太 氏
○ワークショップ　「食」から学ぶ気候変動適応の SDGs 地域づくり
　総合ファシリテーター：中部 ESD 拠点・サステナ政策塾 古澤 礼太 氏

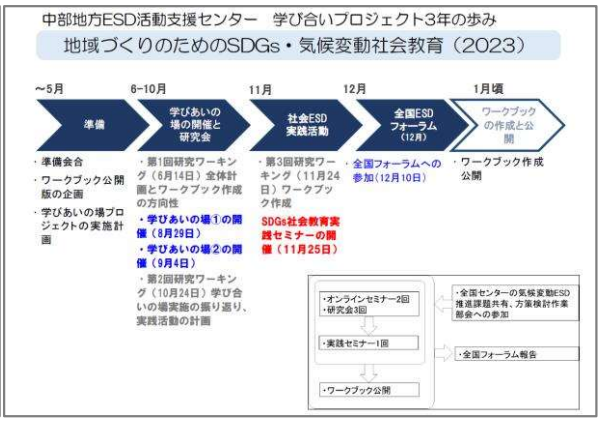
カ 報告（全国フォーラムでの活動結果報告）

- 12 月 9 日開催「ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2023」に出席し、今年度実施した学び合いプロジェクトについての報告を行った。
- また、会場内にブース出展を行い、学び合いプロジェクトの３カ年度での実施内容や中部地方 ESD 活動支援センターによる ESD 支援業務についての紹介を行った。

【作成した全国フォーラム発表資料】



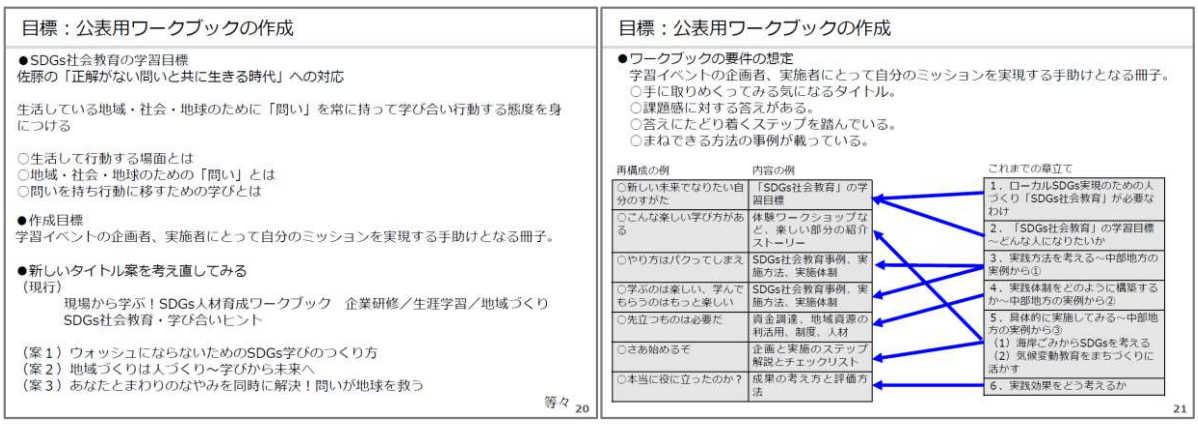




(6) 「中部版 ESD ワークブック」の作成

- 中部地方のローカル SDGs を担う人材育成に役立つ ESD 情報ツールパッケージとして、「中部版 ESD ワークブック」を、昨年度までに作成した試行版ワークブックをもとに、SDGs 社会教育研究会WGで検討・協議のうえ作成した。
- 完成したワークブックは印刷し、冊子として関係者・イベントでの配布、EPO 中部施設内での配架を行ったほか、ウェブサイトで公開した。

①SDGs 社会教育研究会WGでの検討資料（第１回・第２回 WG の資料より）



目標：公表用ワークブックの作成

●手に取ってもらうワークブックをつくるために～ニーズを考え直してみる
（関係者の本音を想像してみる、例：本音ストーリー①～⑤）

①問題意識のある企業の担当者
・CSRの担当を社長から命じられたんだが、何をすればいいのか。社長が喜ぶことだとすると、うちはこんなことやっている素敵な会社なんだと周りに言いつつそれとなく営業することか。SDGsとかが流行りらしいが。あと、電気代が高くなりすぎて将来が心配だとこぼしていたな。。。。

②家庭で家事や子育てを担当している例えば主婦
・だいたいうちの家族は家事の大変さを理解していないわよ。電気はつけっぱなしだし、休みはごろごろしているだけだし、外で少しは役に立つことできないのかしら。清掃活動なんかの、ご近所づきあいなんてしたことないし。最近流行りの「わたしのSDGs」でもすればいいのよ。。。

③地域の公共施設で住民へのアウトリーチを命じられた担当
・予算もないのになにをやれっていうのさ、あのぼんくら課長が。だいたい生涯学習講座なんて陳腐すぎて誰も来ないわよ。うちの施設を活かせって言うけど、人が集まってこそでしょう。どうせなら意味のあることやりたいし。。。

④自治体まちづくり担当、環境担当など、市民の協力を得て施策を展開したい部署
・そりゃ市長は簡単に言うさ。「市民目線のまちづくりを」って。やるのは現場なんだけどね。予算はないに等しいし。それでもって成果を出せと。そもそもどんな成果がいるんだ？人を集めるだけじゃだめだよな。。。。

⑤課題を抱えている自治会の役員
・まったく最近の若い者は、会合に出てこようともせん。ごみルールの問題もあるし、通学路の安全指導会の件もあるし、問題は山積みだというのに。昔はこの地域も住みやすかったものだが、将来どうなることか。なんか大学の先生とやらが会合をやりましょうといっとったが、どうせたいしたものじゃないだろうし。まあ、会長に必ず出るように言われたし、暇つぶしにはなるか。。

22

第1回研究ワーキング
ペルソナワークショップ結果の検討

7

SDGs社会教育ペルソナワークショップ

●より具体的に考えていくために～ユーザーの本音を踏まえて
SDGs社会教育のイベントの企画実施シミュレーションワークショップ
【概要】
ワークブックのニーズを検討するため各人が疑似ペルソナを持ち架空の打合せを行う

○配役と役割：4人で構成、A～Cの3人が議論、ファシリテーションと記録はDが担当
A：当事者、B：上役、C：当事者の同僚、あるいは関係者、D：コンサルタント

○シチュエーション
コンサルタント（D）を交えてSDGs社会教育のイベントの企画の打合せをする。

○コンサルタント（D）は以下の観点をもとにニーズを抽出して事業企画につなげるブレーンストーミングを行う。

テーマ「学習イベント実施の問題点の洗い出し」
・学習イベント企画の課題感
・学習イベント目標の設定
・参加者のハードル
・学習イベント実施の問題（各種資源：こと、ひと、もの、かね）
・参加者の当事者都合
・事業の効果

8

ペルソナの設定方法

当事者（中心人物）のペルソナの作成

設定項目	設定方法
ペルソナ概要	「関係者の本音を想像してみる」より
つぶやき内容	「関係者の本音を想像してみる」より
名前（仮名）	Web上の疑似個人情報生成ツールで作成*
年齢、性別	Web上の疑似個人情報生成ツールで作成*
職業（立場）	ペルソナ概要から想像
役職・学歴・経歴	ペルソナ概要から想像
住所	Web上の疑似個人情報生成ツールで作成*
居住環境	ペルソナ概要と住所から想像
家族構成	ペルソナ概要とつぶやき内容から想像
性格（価値観・人生観）	ペルソナ概要とつぶやき内容から想像
当該組織等での人間関係	ペルソナ概要とつぶやき内容から想像
SDGs社会教育に関わる現在の課題	ペルソナ概要とつぶやき内容から抽出

*https://hogehoge.tk/personal/generator/

9

ワークショップ時間割と配役

○各シナリオ毎の時間配分（1シナリオ40分）
・各配役のペルソナの記入または修正（5分）、共有（5分）
・事業企画打合せのシミュレーション（20分）
・当事者側のニーズの抽出（10分）

配役（敬称略）	シナリオ1 問題意識のある企業の担当者	シナリオ2 地域の公共施設で住民へのアウトリーチを命じられた担当者	シナリオ3 課題を抱えている自治会の役員
A：当事者	堺（係長：榎本）	水上（担当：西野）	原（自治会役員：平田）
B：上役	原（上司の総務課長）	堺（上司の課長）	古澤（自治会長）
C：当事者の同僚、あるいは関係者	水上（榎本係長の部下、入社5年目）	古澤（当事者の先輩）	水上（女性部会長）
D：コンサルタント	古澤	原	堺

○事前準備
・A,B,Cの配役に割り振られたメンバーは、事前にシナリオを確認
・様式（word）に対し、Aは必要に応じて追記、B,C担当は簡単なペルソナを記入

10

シナリオ１問題意識のある企業の担当者

ペルソナ初期設定

シナリオ1	問題意識のある企業の担当者
つぶやき内容	CSRの担当を社長から命じられたんだが、何をすればいいのか。社長が喜ぶことだとすると、うちはこんなことやっている素敵な会社なんだと周りに言いつつそれとなく営業することか。SDGsとかが流行りらしいが。あと、電気代が高くなりすぎて将来が心配だとこぼしていたな。。。。
名前（仮名）	榎本哲也（エノモトテツヤ）
年齢、性別	45、男
職業（立場）	CSRの担当、新任、社長から特命
役職・学歴・経歴	岐阜大学経済学部出身、地元密着の製造業勤務、総務課に所属（係長）
住所	岐阜県山県市
居住環境	実家の近くにマンションを購入
家族構成	専業主婦の妻と子ども二人（中一の娘、小4の息子）
性格（価値観・人生観）	実直で保守的、趣味はマラソンと写真。妻は教育熱心でPTAにも積極的に参加している。
当該組織等での人間関係	人間関係は良好、上司の課長（年齢55、男）は社長からの特命を少し迷惑に思っている、部下に入社５年目のネットに堪能な若手がいる
SDGs社会教育に関わる現在の課題	SDGsをよく聞くが会社とどういう関わりがあるか不明瞭。社長からは外に発信できる成果を求められている。会社に利益のある事業企画を立案したいと思っている。

11

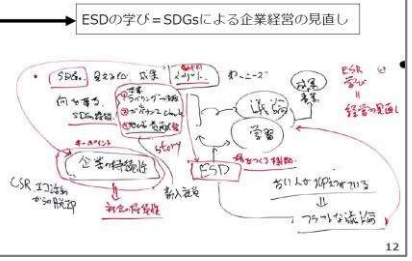
シナリオ１問題意識のある企業の担当者　結果の検討

配役（敬称略）	シナリオ1
A：当事者	堺（係長：榎本）
B：上役	原（上司の総務課長）
C：当事者の同僚、あるいは関係者	水上（榎本係長の部下、入社5年目）
D：コンサルタント	古澤

「CSRの担当を社長から命じられたんだが、何をすればいいのか。社長が喜ぶことだとすると、うちはこんなことやっている素敵な会社なんだと周りに言いつつそれとなく営業することか。SDGsとかが流行りらしいが。あと、電気代が高くなりすぎて将来が心配だとこぼしていたな。。。。」
SDGsをよく聞くが会社とどういう関わりがあるか不明瞭。社長からは外に発信できる成果を求められている。会社に利益のある事業企画を立案したいと思っている。

シミュレーション後の議論の結果
・CSRの工コ活動からの脱却を目指すのが企業としてのメリット
・企業の持続性＝社会の持続性を目指すという意義の再確認の効果
・SDGs取組の意義
①本業や活動の見える化と紐付けによる事業価値の向上
②経営のガバナンスチェック
③地域への貢献
・SDGs取組をストーリー化することでステークホルダー、新入社員への説明もしやすくなる
・ESDの取組で、年功序列的な圧力でなく、自由でフラットな議論の場を作る機能が期待できる

→ ESDの学び＝SDGsによる企業経営の見直し



12

シナリオ２地域の公共施設で住民へのアウトリーチを命じられた担当者

ペルソナ初期設定

ペルソナ概要	地域の公共施設で住民へのアウトリーチを命じられた担当者
つぶやき内容	予算もないのになにをやれっていうのさ、あのぼんくら課長が。だいたい生涯学習講座なんて陳腐すぎて誰も来ないわよ。うちの施設を活かせって言うけど、人が集まってこそでしょう。どうせなら意味のあることやりたいし。。
名前（仮名）	西野麻由（ニシノマユ）
年齢、性別	29、女
職業（立場）	近くのX市福祉会館に勤務（期限付き契約）
役職・学歴・経歴	東京のデザイン専門学校に通った後、横浜市の印刷会社に就職。6年務めたのち両親の希望もあり地元に戻り再就職。
住所	富山県中新川郡立山町
居住環境	古い一戸建てに両親と同居。
家族構成	地元で建設業を営む父親と地元夫人会副会長の母親、5つ下の妹は東京の大学を卒業後、首都圏の中堅のゼネコンに就職。
性格（価値観・人生観）	親が早く結婚しろとうるさい。横浜時代に付き合っていた彼氏とは破局して傷心を引きずっている。X市で一人暮らしをしようかと思案中。趣味は映画と旅行、JPOPコンサートにも機会があれば行きたい。最近SDGsのイベントに参加する機会があった。将来の人生設計がやや不安。
当該組織等での人間関係	上司の課長（61、男）は市役所からの天下りでやや頼りない。相談に乗ってくれる先輩の男性職員（40、既婚）がいるが直属ではない。
SDGs社会教育に関わる現在の課題	市役所の企画課から各施設にアウトリーチ事業の方針が示された。課長が安易に受けたのを本人に仕事を振った経緯がある。参加者の募集が最大の難点と考えている。本人は企画を任されてやる気になっている。

13

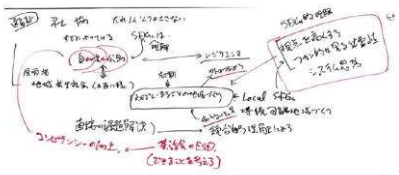
シナリオ２地域の公共施設で住民へのアウトリーチを命じられた担当者　結果の検討

配役（敬称略）	シナリオ２
A：当事者	水上（担当：西野）
B：上役	堺（上司の課長）
C：当事者の同僚、あるいは関係者	古澤（当事者の先輩）
D：コンサルタント	原

「予算もないのになにをやれっていうのさ、あのぼんくら課長が。だいたい生涯学習講座なんて陳腐すぎて誰も来ないわよ。うちの施設を活かせって言うけど、人が集まってこそでしょう。どうせなら意味のあることやりたいし。。。。」
市役所の企画課から各施設にアウトリーチ事業の方針が示された。課長が安易に受けたのを本人に仕事を振った経緯がある。参加者の募集が最大の難点と考えている。本人は企画を任されてやる気になっている。。

シミュレーション後の議論の結果
- 福祉などではすでに行っている学習会のSDGs的な見直しとなる
- お互い様による誰一人取り残されない強靭な地域づくり、自助・共助・公助の概念への親和性が高い（厚労省：地域共生社会の概念）
- 視点を高くした、システム思考が要求される
- 茶話会などのハードルの低いESDでも「できることを考える」ことでキーコンピテンシーの向上が期待できる
- 地域の直接的な課題解決検討を外とのつながり知らない知見の導入により俯瞰的統合的な理解が促進することが期待される
- わがこと、まるごと、の地域づくりをSDGs的に理解する営み

ESDの学び
＝「わがこと、まるごと、の地域づくり」を視点を高くして理解する営み



14

シナリオ３課題を抱えている自治会の役員

ペルソナ初期設定

ペルソナ概要	課題を抱えている自治会の役員
つぶやき内容	まったく最近の若い者は、会合に出てこようともせん。ごみルールの問題もあるし、通学路の安全指導会の件もあるし、問題は山積みだというのに。昔はこの地域も住みやすかったものだが、将来どうなることか。なんか大学の先生とやらが会合をやりましょうといっとったが、どうせたいしたものじゃないだろうし。まあ、会長に必ず出るように言われたし、暇つぶしにはなるか。。
名前（仮名）	平田長蔵（ヒラタチョウゾウ）
年齢、性別	72、男
職業（立場）	農業（稲作、野菜など）の傍ら自治会の役員を務める。
役職・学歴・経歴	高校卒業後、地元建設会社に勤めながら農業を兼業。PTA会長や町内会の役員など地域の役職を歴任、町議会議員を2期務めた後、後輩に選挙地盤を譲ったところ。腎臓に疾患が見つかったため仕事を減らしている。
住所	愛知県知多郡武豊町
居住環境	昔からの集落の一戸建て
家族構成	妻、次男夫婦、孫の5人家族。長男はフィリピン女性と結婚しマニラ在住。
性格（価値観・人生観）	地域社会に対して貢献してきた自負がある。最近の若者の地域への貢献が少ないことに不満を持っているが、時代の流れと半ば諦めている。
当該組織等での人間関係	現在の自治会長（74）は高校の先輩、長い付き合いがある。週に一度は近くの喫茶店で役員クラスのメンバーとしゃべる機会がある。最近婦人部会の会長になった女性と地域の問題を話すことが多い。
SDGs社会教育に関わる現在の課題	集落の活気がだんだんなくなっていくことに対して危機感がある。会長のところに話を持ってきた大学の先生がまちづくりの会合をしたいという。学生なども来るらしい。

15

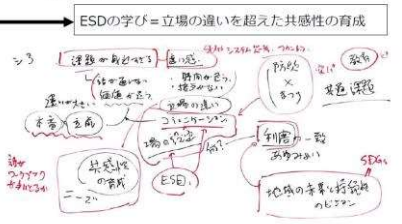
シナリオ３課題を抱えている自治会の役員　結果の検討

配役（敬称略）	シナリオ3
A：当事者	原（自治会役員：平田）
B：上役	古澤（自治会長）
C：当事者の同僚、あるいは関係者	水上（女性部会長）
D：コンサルタント	堺

「まったく最近の若い者は、会合に出てこようともせん。ごみルールの問題もあるし、通学路の安全指導会の件もあるし、問題は山積みだというのに。昔はこの地域も住みやすかったものだが、将来どうなることか。なんか大学の先生とやらが会合をやりましょうといっとったが、どうせたいしたものじゃないだろうし。まあ、会長に必ず出るように言われたし、暇つぶしにはなるか。。。。。。」
集落の活気がだんだんなくなっていくことに対して危機感がある。会長のところに話を持ってきた大学の先生がまちづくりの会合をしたいという。学生なども来るらしい。

シミュレーション後の議論の結果
- 地域課題が身近すぎてSDGsの遠い話とは無縁に感じる
- 立場が違う、価値が違う、時間が違う、接点がない、などにより、ESD,SDGsの話が通じにくい
- 本音と建て前がかなり違うため、利害が何かがわかりにくい。
- 一方で防災×まつりなどで利害が一致する例もあり、共通化できれば学びの場の設営の突破ができる
- 課題認識の共有化ができれば歩み寄りが可能で、学び合いが地域の持続可能性の議論につながることが期待できる

ESDの学び＝立場の違いを超えた共感性の育成



16

②完成した「中部版 ESD ワークブック」の原稿（https://www.epo-chubu.jp/tool/esdworkbook）

あ と が き

環境省と文部科学省の事業であるESD推進ネットワークでは、さまざまな分野でのESD推進を支援しています。中部地方ESD活動支援センターでは社会におけるESD推進を目的とした支援活動を展開し、令和3～5年度には、「学びあいプロジェクト」を実施しました。

プロジェクトでは年に3回の研究会、公開オンラインセミナー2回、公開現地ワークショップ1回、全国ESD推進フォーラム分科会などを開催し、人づくりのための学びのあり方について検討を進めてきました。その結果を元に地域社会でのESDの現場でヒントとなるよう作成したのがこのワークブックです。企業研修、生涯学習、地域づくりなどの現場で、何か一つでも皆さまのお役に立つ内容があれば幸いです。

検討にあたり、現地の関係者やその他支援をいただいた皆さまをはじめ、ESD推進ネットワークの関係者の皆さまに感謝します。特に東京都市大学の佐藤真久先生には、学術的背景をはじめとした専門的な助言に感謝いたします。

2023年12月　中部地方ESD活動支援センター
（環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部））
SDGs社会教育研究会WG

●参考情報一覧（2023年12月現在）

事例1：海岸ごみからSDGsを考える
中部地方ESD活動支援センターホームページ《ESD for 2030 学び合いプロジェクト》実践セミナーを開催しました
https://chubu.esdcenter.jp/2021/11/12/4105.html

事例2：食から気候変動を考える体験学習
中部地方ESD活動支援センターホームページ,《ESD for 2030 学び合いプロジェクト》地域づくりのための気候変動社会教育～学び合いの場①②&実践セミナーを開催
https://chubu.esdcenter.jp/hot_topics/2023manabiai

方法1：気候変動ミステリーワークショップ
○福井県ホームページ,福井県気候変動教育プログラム事業
https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kankyou/ee/kikouhendou-kyouiku-program.html
基礎編「福井県版ミステリーワークショップ」

方法2：脱炭素まちづくりジグソーワークショップ
○福井県ホームページ,福井県気候変動教育プログラム事業
https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kankyou/ee/kikouhendou-kyouiku-program.html
応用編「課題解決ワークショップ」

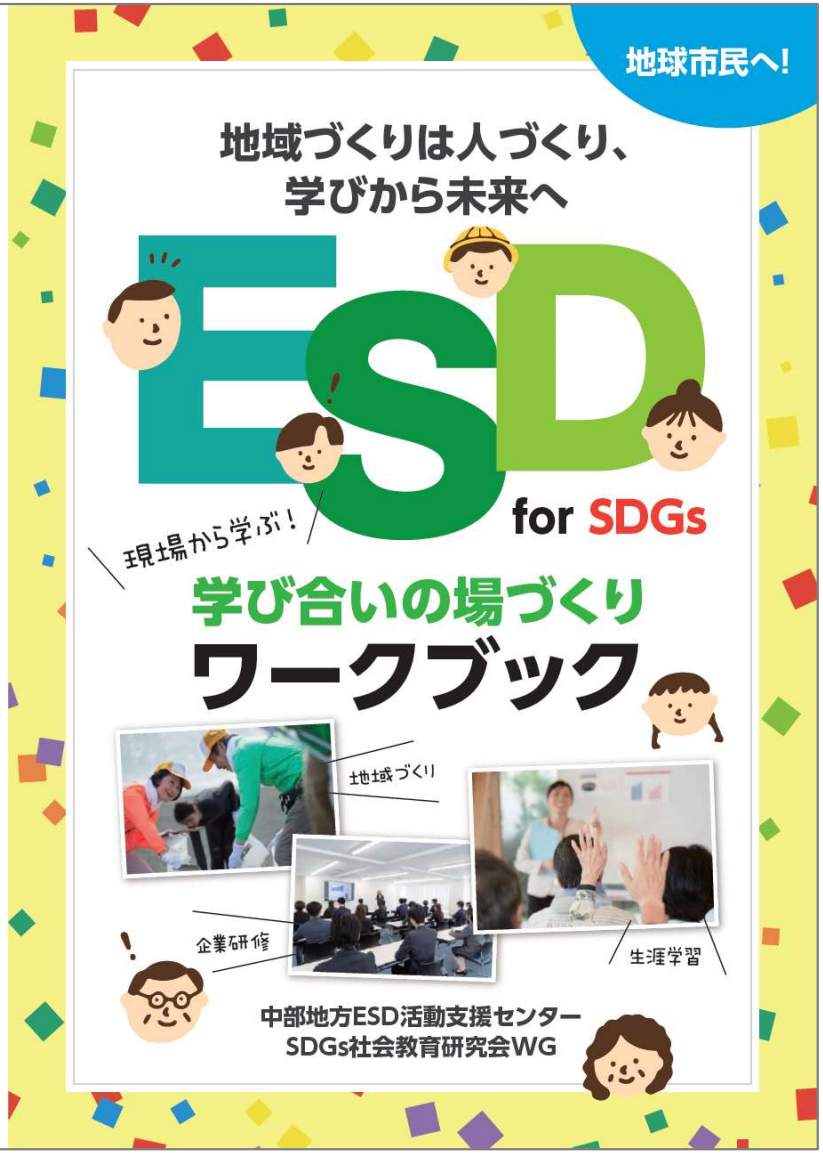
方法3：グラレコを使ったSDGsトークカフェ
○一般社団法人環境市民プラットフォームとやま（PECとやま）ホームページ,【実施しました】SDGsトークカフェ「〇〇でも生きやすい♡これからの富山のカタチ（全6回）」
https://www.pectoyama.org/post/event200912

方法4：共通様式を使ってオンラインSDGs交流
○環境省中部環境パートナーシップオフィスホームページ,「SDGs学生サミット」のYouTube動画を公開中
https://www.epo-chubu.jp/epo-news/17840.html
プログラムと資料DL、第1部 団体発表

地域づくりは人づくり、学びから未来へ
ESD 現場から学ぶ！ 学び合いの場づくりワークブック

●SDGs社会教育研究会WG
古澤礼太　中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授、中部ESD拠点協議会事務局長
水上聡子　EPO中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表
堺 勇人　EPO中部運営委員、一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま（PECとやま）事務局長
原 理史　中部地方ESD活動支援センター、中部大学国際ESD・SDGsセンター研究員
●オブザーバー　環境省中部地方環境事務所環境対策課
●事務局　中部地方ESD活動支援センター（環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部））

2024年3月



SDGsは待ったなし！
今大切な未来のための人づくり

地元を良くしたいと考えている皆さん。地域づくりは人づくりから始まります。そのとき大切なキーワードが「ESD」と「SDGs」。「なんか巷ではやっているSDGs。関係あるのかなあ。勉強会が必要かなあ。なんか教育現場でESDとも言っているなあ」──そんなとき、このワークブックはきっと役に立ちます。

ESDってなんだろう?
SDGsのための人づくりってなんだろう?

そんな基本的なことから、

何を目標にするんだ?
どんな分野があるんだ?
どんなやり方があるんだ?
どんな人を呼べばいいんだ?
実際に何をすればいい?
それで役に立つのか?

といった実践的なことまで、考えるヒントが満載です。

ESDとSDGs

ESD　Education for Sustainable Development
(持続可能な開発のための教育)

SDGs　Sustainable Development Goals
(持続可能な開発の到達目標)

ESDは、2002年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議」で日本が提唱した考え方です。同じ年に「国連持続可能な開発のための教育の10年」が国連総会で採択されて以降、国際的に取組まれてきました。世界の人々が末永く幸せに暮らせる社会を作るための人づくりです。

SDGsは2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

すなわち、住み続けられるよりよい地球社会の目標がSDGsであり、そうした地球社会を担う人づくりがESDということになります。

持続可能な社会に向けた(SDGs)、人づくり(ESD)という関係があるといえます。

いろんな場面で悩みはさまざまです

学びの目的は何でしょう?

CSRの担当を社長から命じられたんだが、SDGsとかが流行らしい。何をすればいいのか。社長が喜ぶことだとすると、うちはこんなことをやっている素敵な会社なんだと周りに言いつつ、それとなく営業することか。

そういえば、経理が「電気代が高くなりすぎて将来が心配だ」とこぼしていたな……。

製造業総務部門勤務
榎本さん(45才、仮名)

学びの目的
SDGsから企業経営を見直し、地域への貢献のあり方を考える

予算もないのに何をやれっていうの。だいたい生涯学習講座なんて誰も来ないわよ。

うちの施設を活かせって言うけど、人が集まってこそでしょう。どうせなら意味のあることやりたいし……。

福祉協議会勤務
西野さん(29才、仮名)

学びの目的
「わがこと、まるごと、の地域づくり」を高い視点から理解する

最近会合への集まりが悪くて困ったもんだ。ごみの出し方のルールの問題もあるし、通学路の安全指導会の件もあるし、問題は山積みだというのに。昔はこの地域も住みやすかったものだが、将来どうなることか。なんか大学の先生とやらが勉強会をやりましょうと言っとったが、はて……。

農業・自治会役員
平田さん(72才、仮名)

学びの目的
立場や世代の違いを超えた地元への共感を育む

CONTENTS

人づくりのためのヒント

P4
「学び合いの場」を作ろう!
P5
楽しいがいちばん!
企画の糸口を見つけよう!
自分たちが楽しむ!
外に出てみる!
話し合いから気づく!
ゲームで学びを遊ぶ!
P6
具体的な企画を考えてみよう!
テーマ、人さがし、
プログラム、人あつめ
P7
実際に始めるために
「人」「もの」「こと」「金」が必要
学び合いの場づくり 企画ワークシート
P8
"楽しい"学びの企画と実践
事例1 海岸ごみからSDGsを考える
事例2 食から気候変動を考える体験学習
P10
学びを盛り上げる素敵な方法
方法1 気候変動ミステリーワークショップ
方法2 脱炭素まちづくりジグソーワークショップ
方法3 グラレコを使ったSDGsトークカフェ
方法4 共通様式を使ってオンラインSDGs交流
P11
学習効果を測定するには

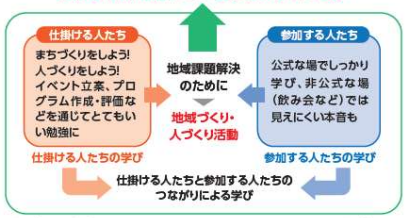
ESD

「学び合いの場」を作ろう!

地域を「つくる」ことは、人づくり、すなわちESDから始まります。地域づくりの活動(まちづくりイベントなど)はそれを仕掛ける人たちにとっても大きな学びの場となります。もちろん参加する人たちにとっても大きな学びの場であることはいうまでもありません。また、それだけでなく、仕掛ける人たちと参加する人たちとの出会い、これもつながりによる特別な「学び合いの場」となるのです。

つまり、地域づくりの活動とは、関係者の特別な「学び合いの場」を作ることです。地域の課題を解決していくために、地域の「人」が磨かれるために、「学び合いの場」を作っていきましょう。

地域づくり(SDGs)は人づくり(ESD)



地域づくりは人づくりから、すなわちSDGsはESDからです。そこでは地域づくり活動を仕掛ける人、参加する人、みんなが学び、学び合い、地域の課題解決に向けて「人」が磨かれていくことが大切です

楽しいがいちばん!
企画の糸口を見つけよう!

座って退屈な話を聞くことにあなたは耐えられますか? 人は「楽しい!」「おもしろい!」と思ったときに最も学びの力が高まります。自ら「おもしろい」ことを求めていけるような組み立てが必要です。それは「対話」かもしれません。「観察」なのかもしれません。「調べること」や「議論」を組み込むことかもしれません。「ゲーム」だっていいんです。

自分たちが楽しむ!

仕掛ける人たちが楽しい!と思うイベントを企画しましょう。そのためには参加者に「楽しい!」と思ってもらうことが何より大切です。楽しんで作り上げた「学び合いの場」で参加者に楽しんでもらえたら…絶対「楽しい!」

外に出てみる!

百聞は一見に如かず。学びの種は「まち」や「里山」、家の「近所」にもころがっています。草むしりやゴミ拾いにも新たな発見があります。たくさん歩いて、体を動かして、みんなとおしゃべりしたら…絶対「楽しい!」

話し合いから気づく!

受験勉強は一人だからつらいんです。あるテーマで他の人と話し合ったり一緒に何かを作ったりしたら、それだけで楽しいですよね。そしてある時、目から鱗が落ちることがある。話し合いから気づきが生まれる体験は…絶対「楽しい!」

ゲームで学びを遊ぶ!

イベントにゲームの要素を取り込むとテンションが上がります。大人も子どももゲームが大好き。スタンプラリー、クイズ、カードゲームなど、これらを通じて新たに知ったり、考えたり。遊びながら学べたら…絶対「楽しい!」

具体的な企画を考えてみよう!

さあ始めよう! テーマ、人さがし、プログラム、人あつめ

●最初に考えること●

学び合いの場づくりの目標は何ですか?
どんな人に参加してほしいですか?

企画を考える上で一番大切なのは、この二つです。予算や会場などの制約はありますが、イベントの目標と参加者像を明瞭にすることが重要です(上司への説明のためにも!)。

●企画を具現化するために●

学びの目標と参加者像が決まったら、テーマやプログラムを考え、それに必要な人を見つけていきます。

テーマ

分野はどこからでも SDGsですべてはつながる

イベントの題材は何を取り扱っても構いません。現代社会の課題を扱えば持続可能性の問題を避けて通ることはできないからです。SDGsの17のゴールがすべての分野をカバーしていることからもわかります。できれば具体的なテーマから掘り下げたり広範囲の分野と関連させたりすると興味が広がります。

人さがし

専門家を頼めますか?

研究者などの学識経験者にお願いする場合は紹介者を通じて行うのが一般的ですが、最近は大学などで学外連携拠点を設置しているケースもあります。また環境省中部地方環境事務所や環境パートナーシップオフィスなど公的機関に相談することもできます。いずれの場合も、日時や場所、何を話してほしいか、費用、条件などをできるだけ明確にして探すことが重要です。

プログラム

ストーリーで参加者をひきつける

いくつかの話題提供によるインプット、野外活動、ワークショップやディスカッションなどから構成する場合、全体の流れが参加者に見えるようなストーリーがあるとわかりやすくなります。参加者はそれぞれの活動にどんな心構えで参加すべきかがわかるからです。

人あつめ

参加してほしい人に声をかける

どんな人に集まってほしいかを明確にしたら、その人たちに声を掛けます。方法はさまざまで、直接一人ひとりお願いする場合もあるでしょうし、広報誌やWebページで不特定多数に発信することもあるでしょう。イベント規模や対象属性によって効果的なアプローチのデザインが必要です。また、イベントはオンラインを活用したり、既存の会合に合わせて実施することも考えられます。

ESD

実際に始めるために

学びの場づくりには、「人」、「もの」、「こと」、「金」が必要です。いずれも「協働」のノウハウです。

人　誰が必要？　人脈やネットワーク

学び合いの場を作るにあたっては、参加者にとって新たな知識や知見のインプットがかかせません。そうした情報をもっている専門的な人、情報を伝えることに秀でた人などが必要です。また、話し合いをうまく作り出せるファシリテーター、全体を効果的にまとめるコーディネーター、有効なコンテンツのデザイナーなど、必要に応じてお願いできる「つて」があると企画が広がります。

もの　どんなものが必要？　特徴ある開催場所やツール

まず参加者に集まってもらうための「場所」が必要です。大勢の人が集まるなら会議室や講堂など、広めの会場を準備しなければなりません。プロジェクターやパソコン、マイクなどの音響設備、机やいすなどの什器に加えて、ワークショップやゲームの道具類も準備する必要があるかもしれません。野外では衣類や作業・観察道具の他、安全にも心配りが必要です。お昼をまたぐようなら昼食も考えておきましょう。

こと　どんなことが関係？　効果・情報発信・つて

そのイベントは、なぜ、その時期に、その場所で、そのテーマで開催するのか、ということも考えておきましょう。他のイベント、町内の集まり、役所や学校の動きなど、関係している「こと」があるかもしれません。そうした「つて」をたどれば「人」、「もの」、「金」を融通してもらえるかもしれません。

金　いくら必要？　開催資金

人件費、消耗品、印刷費、広報費、講師謝金、交通費などのコストをまかなう方法が欠かせません。公的な予算や助成をいかに活用するかが大切です。そのためには十分な説明を権限者に行う必要があります。また企業への依頼も考えられます。「企業が行っているSDGsをお手伝いします」という説明のしかたもあるかもしれません。

学び合いの場で大切なことは、たくさんあります。最も重要なのは、一方向の講演や一過性のイベントにならないよう、一人ひとりが主体的に持続的に参加できるようにすることです。そのため、次の3つをプログラムに組み込んでみましょう!

❶何を目的にどのような成果を目指すのか**趣旨とゴールを明確に**し、全員が理解してスタートします。
❷年齢・性別・職業などに関係なく対等で互いを尊重しながら話し合いができるよう、**参加のルール**を皆で決めます。
❸初めての人どうしでも心を開き、和気あいあいと話せるよう**アイスブレイク**を取り入れます。

この様式はアイデアメモシートです。企画会議などで活用してください

学び合いの場づくり 企画ワークシート

必要な「人」「もの」「こと」「金」を想定しながら、イベント企画のアイデアをメモしてみよう。

学びの目標
何のために開くのか、どんな持ち帰りをしてもらうのか、イメージしよう。
イベントを開くこと自体は、目標ではありません。

想定される参加者
だれに来てほしいのか、持ち帰った先も考えてイメージしよう。

テーマ
目的や分野を表すキーワードをテーマに使ってみよう。
キャッチーで短いタイトルを考えよう。
サブタイトルも活用しよう。

●企画内容	●必要なもの
日時・場所 どんな時期がよいか、週末か平日か。場所のイメージは。	もの 場所は室内か、室外か。広さの規模もイメージしよう。 こと 他のイベントとの連携、時期やタイミングも考えよう。 金 会場費のことも頭の隅に置いておこう。
プログラム(人さがし) どんな分野のどんな内容で行うか、具体的な内容を考えよう。 ○講演? ○話題提供? ○ディスカッション? ○ワークショップ? 組み合わせも重要。 併せて登壇者もイメージしよう。	人 誰にお願いすればよいか。登壇者の人選から企画が始まることもある。 こと 時間枠や全体の流れをイメージしてみよう。 もの しつらえやワークショップの道具もアイデアがあれば考えておこう。 金 登壇者が遠方の方だったり、有名人だったりだとするとお金がかかる。ある程度考えておこう。
主催と協力者(共催・後援) 単独で開催するのか、協働して行うのか、協力者はあるのかなどを考えておこう。	人 協力してもらえる組織はどこか? 誰か相談できる人はいるか? 思いついたらメモ。 金 ただでは協力してもらえないこともある。
人あつめ(参加者) どんな方法で参加者を募るか、イメージをもとう。	人 学校や町内会など、募集であてになる組織はあるか。 こと チラシを作ったり、Webに載せたりと、方法もいろいろ。 金 メディアにうまく取材してもらえばお金もかからない。

ESD “楽しい”学びの企画と実践

事例1 海岸ごみからSDGsを考える

中部地方ESD活動支援センター主催
中部2021年度SDGs社会教育〜実践セミナー

STEP 1 企画をする!

▼目標・テーマなど

学びの目標 海岸ごみの体験からSDGs時代の担い手として できることを考える。

想定される参加者 地域の若者、流域に位置する企業関係者

テーマ
ローカルSDGs気づきから
担い手づくりへ
〜海ごみをまるっと考える。

▼企画内容と必要なもの

日時・場所
秋の土曜日、六渡寺海岸

もの こと 金 海岸ごみ清掃を体験する、地元の活動と連携を検討。地域の公民館は使えないか。

プログラム(人さがし)
午前中は海岸で
ごみ清掃と分別、
午後はそれらのごみについての
解説とSDGsワークショップ

人 海岸ごみの専門家に話をしてもらう(地元大学につてあり)。SDGs担い手の意味について解説していただく識者を東京から呼びたい。
もの SDGsワークショップで円形シートを使うと良いかもしれない。中心に選んだごみを置き、縁に貼ったSDGsタイルとつないで議論するなど。
金 東京から演者を呼ぶ場合は旅費等を算入すること。

主催と協力者(共催・後援)
地元活動団体に協力を依頼

もの こと 地域ESD拠点に登録している「PECとやま」に協力を依頼、地元のネットワークを頼る。

人あつめ(参加者)
地元活動団体に協力を依頼

人 地域ESD拠点に登録しているPECとやまに協力を依頼。
金 地元の新聞社に主催してもらうことを検討。

STEP 2 実践してみた!

●テーマ：海岸プラごみ清掃から流域のローカルSDGsの担い手づくりへ
●日　時：2021年10月30日(土)11:00〜16:30
●プログラム
11:00〜 現地視察(オンライン中継)
六渡寺海岸(富山県射水市)にて視察体験
●活動:徒歩で六渡寺海岸へ、視察、ごみ拾い体験
13:30〜 ワークショップ(オンライン併用)
●はじめに…本セミナーの内容について説明
●インプット
プラスチックの功罪、海ごみからのSDGsと市民意識
楠井 隆史(富山大学名誉教授)
現地視察の振り返り、海岸のごみ清掃活動について
境 信智(六渡寺自治会長)
●グループワークショップ
六渡寺海岸のプラごみ問題、どのようにつながっている?
コーディネーター　原 理史(中部地方ESD活動支援センター)
●総括コメント
実践活動の学びを持続可能な社会に活かす地球市民
佐藤 真久(東京都市大学教授)

https://www.pref.toyama.jp/1706/kurashi/kankyoushizen/kankyou/mizuhozen/2mamorou/group/23.html

当日はお天気にも恵まれ、高校生や地元企業の職員も参加して海岸ごみを拾いました。肥料の散布用プラスチックカプセルの粒がたくさん打ち上げられていたのは驚きでした。

ワークショップもいろいろな議論ができ、オンラインでは海外からの参加もありました。佐藤先生からも素晴らしい総括をいただきました。

ワークショップでプラごみの問題を関連付け

事例2 食から気候変動を考える

中部地方ESD活動支援センター主催
2023年度SDGs社会教育〜実践セミナー

STEP 1 企画をする!

▼目標・テーマなど

学びの目標 気候危機適応を身近な食の観点から SDGsの取組につなげる意識を養う。

想定される参加者 サステナ政策塾(中部ESD拠点協議会主催の研修コース)の塾生を含む一般市民

テーマ
仮)ワークショップ
「食」から学ぶ気候危機適応
とSDGs地域づくり

▼企画内容と必要なもの

日時・場所 2023年11月25日(土)
伊勢湾、三河湾流域沿岸など

もの こと 金 食と気候変動と言えば海産物、漁協さんに協力いただくことはできないか。会場は海岸近くの公民館などが考えられる。

プログラム(人さがし)
・講演によるインプット
・現地視察
・気候変動
ミステリーワークショップ

人 地元の漁協さん、愛知県の水産試験場、東海農政局に頼めないか。当てにしている気候変動適応の専門家は国際会議に行っているかもしれない、オンライン登壇を頼めるか。
こと 金 昼ご飯は海苔など現地食材でみんなで作ったらどうか。実費徴収が必要。
こと 人 ワークショップは専門家の助言をもとにカード作成が必要。

主催と協力者(共催・後援)
地元活動団体に協力を依頼

こと 2団体共催で、講演とワークショップは中部地方ESD活動支援センター、視察と塾生募集はサステナ政策塾で。

人あつめ(参加者)

こと 人 サステナ政策塾の塾生、他、WebやSNSで広報、付き合いのある地元の高校や大学を通じて声かけ。

STEP 2 実践してみた!

●テーマ：食べ物が変わる?! 気候変動と私たちの暮らし
●日　時：2023年11月25日(土)10:00〜16:00
●場　所：愛知県常滑市鬼崎漁港、鬼崎漁業協同組合会議室
●参加方法：現地参加30名定員、オンライン(午前のみ)
●費　用：参加無料　※現地参加者の昼食は実費負担
●プログラム
10:00〜 1. 話題提供「食の変化と気候変動」
●「森里川海からとれる食、気候変動でどう変わる?」
井上 俊樹(農林水産省東海農政局企画調整室長)
●「伊勢湾三河湾の水産資源の移り変わり」
植村 宗彦(愛知県水産試験場漁業生産研究所主任研究員)
●「農林水産業の現場から、鬼崎漁業組合」
平野 正樹(鬼崎漁業協同組合参事)
●「気候変動影響と適応対策」
杉山 範子(東海学園大学教授) ※オンラインの予定が現地参加に
12:00〜 2. 昼食と現地視察ー海苔養殖関連施設等の見学、昼食ー
コーディネーター　古澤 礼太(中部ESD拠点・サステナ政策塾)
14:00〜 3. ワークショップ「食」から学ぶ気候変動適応のSDGs地域づくり
総合ファシリテーター　古澤 礼太(中部ESD拠点・サステナ政策塾)

サステナ政策塾の塾生や温暖化防止活動推進員、NPOの関係者なども参加して、充実した学びの場となりました。午前中の講演、昼食と視察、ワークショップにも熱心に参加いただき俯瞰的に関連付けて考える「システム思考」の向上に役立つ場となりました。

昼食は地元海産物の鍋と海苔のおにぎりをみんなで作り、とても楽しい食事会となりました。カニが美味しかった!

ESD

学びを盛り上げる素敵な方法

学び合いの方法には、マンガを使った学び、ゲーム感覚で議論を行うワークショップ、オンラインを活用したネットワークフォーラムなど、さまざまな方法があります。

方法1 気候変動ミステリーワークショップ

2023年度SDGs社会教育～実践セミナー

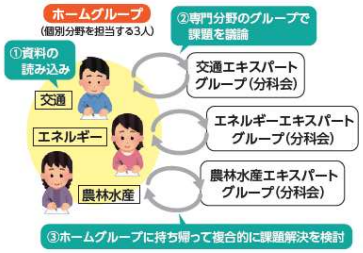
最初に気候変動に関するミステリーのお題が出ます。例えば「最近稲の出来が悪くなっている。なぜだろう?」。そのミステリーを解くために、グループで議論しながら、「24枚1組のミステリーカードを論理的に関連付けて並べます。

このグループワークを通じて、気候変動によりどんな現象が発生しているかを把握し、気候変動にはさまざまな事柄が複雑に絡み合っていることを学びます。

方法2 脱炭素まちづくりジグソーワークショップ

2022年度SDGs社会教育～実践セミナー

交通、エネルギー、農林水産など、異なる分野の担当者から成る3人のグループを作ります。はじめに気候変動や地域に関わる資料「統計データ集」を読み込み、各グループで議論をします。その後、専門分野別のグループに分かれ、それぞれの分野の現状を分析し、批評します。再び、元のグループにそれを持ち帰り、地域の理想とする将来像を考え、実現するために必要な課題解決策を検討します。



方法3 グラレコを使ったSDGsトークカフェ

SDGs OTERA Café(SDGsお寺カフェ)

地域のお寺とコラボし、身近な課題についてSDGsを通じて語り合う連続イベントを、助成金を得て開催。それぞれの課題に向き合う当事者や支援者・関係者から話を聞き、参加者同士でそこから感じたこと、これからしたくなったことなどを対話を通じて緩やかに共有しました。

会の様子を絵や文字で絵巻物のように記録する「グラフィックレコーディング」を取り入れ、対話を深めました。完成したグラフィックは冊子化、Web掲載し、課題の内実や対話の様子を広く伝えることにも活用しました。

方法4 共通様式を使ってオンラインSDGs交流

SDGs学生サミット(2019年度～2023年度)

遠く離れていてもオンラインでなら交流できます。SDGs学生サミットと銘打ち開催した交流会では、離れた別の大学の学生グループによるSDGsの取組発表、SDGs未来都市の職員による取組発表を元に、交流と議論を行いました。

そのとき、共通の土台としてSDGsとの関連を図示する様式を用いることで、いろいろな観点から具体的な議論を深めることができました。

コンポスト活動をしている学生グループのSDGs取組を、様式を使って模式図にした例

成果を次に生かす!

学習効果を測定するには

成果を活かすためには学習効果を考えることが必要です。目標は適切だったでしょうか。意図したきっかけ作りはできたでしょうか。意欲が高まったでしょうか。地域の未来を担うにふさわしい能力や態度に即して考える必要があります。効果を調べるには参加者のアンケートが有効です。

●ESDで身につけたい能力、態度

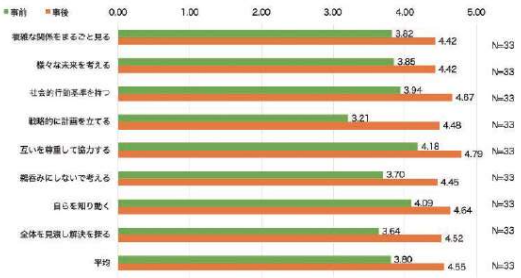
ユネスコではESDを通して身につけてもらいたい能力や態度について鍵となる8つの項目を挙げています。これらを元に、学習効果のアンケート項目を考えることができます。

能力・態度	ユネスコの項目	アンケート項目例(当てはまらない～当てはまる:5段階)
複雑な関係をまるごと見る	1)システム思考	1)複雑な問題の様々な要素の関わり合いを知ろうと思う。
様々な未来を考える	2)予測的	2)これからの持続可能な社会を考えて勉強しようと思う。
社会的行動基準を持つ	3)規範的	3)自分はどのように行動したらSDGsに合うか考えようと思う。
戦略的に計画を立てる	4)方略的(戦略的)	4)戦略的・計画的に考えようと思う。
互いを尊重して協力する	5)協働	5)他者の立場や意見を尊重し、協力するやり方を学ぼうと思う。
鵜呑みにしないで考える	6)批判的思考	6)問題について別の考え方や方法がないか考えようと思う。
自らを知り動く	7)自己認識	7)自分は何ができるか、「役割」を考えるようにしようと思う。
全体を見渡し解決を探る	8)統合的問題解決	8)関連する様々な課題を整理し、統合的な方法を考えようと思う。

●学習効果を測定した例(2022年度学生サミット)

オンライン交流会の事前と事後でアンケートを取り、5段階で点数化した平均値を比較しました。それぞれアンケートフォームを用いて回答してもらっています。

事前の回答に比べて事後の回答の点数がすべての項目で高くなっており、「これからはそう考えていこう」という意向が形成されたことがわかります。交流会によってSDGs時代を担う人づくりの上での学習効果が現れたと考えられます。



出典:田開寛太郎・伊藤恭彦・原理史・清末三郎・置田夏子・堀井弘道・杉田暁・古澤礼太・平川真・川村真也(2023):ローカルSDGs指標に基づく施策議論プログラムのESD活用研究,「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」2022年度成果報告,文部科学省共同利用共同研究拠点中部大学中部高等学術研究所国際GISセンターに加筆修正

(7) ESD 推進のための教育現場等の実態把握と連携強化

- 教育現場の専門家との連携を強化し、効果的にESD業務を展開するため、SDGsの取組、ESD実践の推進状況等について、専門家１名、教育現場の関係者２名、中小企業の経営者等２名を対象にしたヒアリングを実施した。

ア 専門家への包括ヒアリング

ヒアリング対象	**金沢大学大学教員　人間社会研究域　学校教育系　加藤隆弘　准教授**
実施日	2023年6月15日12：00～14：00

ヒアリング結果

〇専門領域における現在のESD/SDGsの取組について

- もともとは大学院の教育工学の分野で学校支援を行う中で巻き込まれる形で ESD に関わった。総合学習や探究学習の支援において、学校現場の中だけでなく周りや地域とのつながりを大切にし、行き来する学習が重要との考えを持って関係している。個人的には宇宙教育から環境への興味をもちつつ、ESDに関わるという側面もあった。
- 現在は北陸 3 県の「北陸 ESD 推進コンソーシアム」の事務局に関わっている。コンソーシアムでは数多くの ESD 推進コーディネーターが活躍しており、最終的な目標地点は富山、石川、福井の ESD の相談交流コミュニティの構築である。そのために普及啓発、セミナー、情報発信、事例の収集、動画の作成配信等を行ってきた。
- コロナ禍もあったが動画等によるｅラーニング（Web等を活用したオンライン学習）教材を拡充してきたのは大きな成果だと考えている。
- 環境基金の事業をきっかけに「北陸における SDGs 達成に向けた ESD プログラム開発」事業を推進している。ここではモデルプログラムの開発と実践、そしてその普及を意図した活動を行っている。
- また SDGs・ESD 実践ガイドブック（北陸版）を作成しており、様々な学校現場の ESD の取組を解説するとともに、地域におけるつながりや期待される役割について紹介している。

〇ESD2030と「実施計画（第２期ESD国内実施計画）（案)」についての考え

- 2030 というバックキャストの重要性はよくわかるが、予測不可能な世界の（ウクライナ侵攻のような）動きを見ているとすんなり計画が実現できるとは思えない。それでも目標は重要であり、その中から自分でできることを考えて少しでも実践していくことが大切。
- 我々だからできること、すべきことを抽出して、現場で当たり前になるように活動していくことが必要と考えている。
- その際に成果があがるよう、周りの人が納得できるよう、合意形成をしながら少しでも前進できるように動くことで、バックキャストとフォアキャストが合致して ESD2030 や実施計画に対応していくことになると考えている。
- そのために仲立ちの役割として、より良い納得できる事例を紹介していきたい。
- ESDに関連しての情報が学校現場にはなかなか降りてこない。

〇学習指導要領におけるESDとその推進についての考え

- コンソーシアムの ESD コーディネーターの肌感覚としてはそもそも ESD の考え方や ESD の言葉自体はなかなか現場に普及していない。

- 学習指導要領の前文に記載されたこと自体は大きい。ESD の言葉は入っていないが、概念が記載されたことで、現場の先生が考えるチャンスを得たと言える。ただし、この概念自体は ESD という言葉には結びついていないところがあり、もどかしい思いをしている。
- 一方で新しい教科書では SDGs の記載は取り入れられており、現場の先生方はこれを教材として使っている。しかしこの内容が ESD の概念に十分に連結しているとは言いづらい。本当はすべての教科にリンクして ESD の概念が埋め込まれる必要がある。

〇我が国の ESD 推進全般についての現状の課題についての考え

- 教員が一度立ち止まって教育内容を見直す機会などがあれば SDGs と ESD がリンクするが、その余裕がないのが実情。例えば Well Being の言葉などもいろいろな場所でばらばらで入ってくるので、消化する暇がない。
- 教員の学び直しの機会や、その体験などの機会があれば、自主的に言葉を概念とつないでいく正のフィードバックが期待できる。しかし、このような連鎖は、成功体験と納得感が無ければ難しく、やらされ感の研修では自主的な ESD 概念の構築と実践につながらない。
- 例えば地域と連携した学習はプログラムを作成するのは非常に大変だが、子どもたちが地域との連携授業で育っていく姿を見ると、学校の先生方は手間をかけよう、努力しようという気になる。
- 子どもが変わった瞬間を見るというのは教師の大きなモチベーション。そうした現場を見ることができると ESD の大きな入口となる。そのような身近な授業を見ることができればイメージをもつことができる。
- そうした場がなかなか作れないのが現時点での課題感。なので、せめて動画等を作成して、こういう授業でこんなに生徒が変わっているという情報発信をしていきたい。
- もう少し人手があって、メールの問い合わせや相談の対応、場合によってはモデル授業をやってもらうなどの対応があれば、もう一歩踏み出す先生方もでてくるのではないか。

〇今後の ESD 推進に向けて重視していることや展望

- ESD の実践の拡大はもちろんだが、できれば子どもの成長のエビデンスを集めていきたい。その客観的エビデンスは第一に子どもが「書ける」かどうかとなる。その before、after の変化が重要と考えている。観察という方法もあるが計測者のバイアスがかかるため、評価としては書いてあるものがやはり重要と考える。
- 例えば質問紙法など、定常的に実施している調査で、教育方法が ESD を取り入れるなどの変更があり、回答の内容に変化があれば効果があったということができる。
- ESD に関わる地域の活動がもっと増えないといけない。まだまだ足りない。さらに増やさなければいけない。
- また、そうした地域の方々が今後教育的観点で子どもに接して頂けるようになってほしい。例えば最初から答を言うのではなく、子どもと一緒に考えてもらうようにお願いしていくことが重要。そうした点から外部の人、地域の人の支援の手法を変えていく必要も感じる。
- こうしたことを含めて、教育行政の中で、納得の上で教育長、教育委員にインプットすることは重要である。

イ 教育部局、教育委員会、現場の教員等を対象にしたヒアリング

ヒアリング対象	**高山工業高等学校教諭**
実施日	2023 年 10 月 28 日 9:00～11:00

ヒアリング結果

〇学校の特色について

- 学生数は定員で全体 400 人弱、各学年 130 人程度の工業高校で、ものづくりを通して地域を支えている高等学校。工業高校として飛騨地域のものづくりを支える人材育成の現場を担っている。
- グラデュエーション・ポリシーとしては地域を担うエンジニアリーダーの育成を目標としている。

  ◇自信と誇りを身に付け、自分で考えて行動し、向上心を持って技術で地域社会を支える生徒

  ◇他者を尊重し他者と協働して、良好な人間関係を築き、社会から信頼される生徒

  ◇地元を愛し、積極的に課題解決に取り組み、地域や社会に貢献できる生徒

  『育てたい生徒像』（「岐阜県立高山工業高等学校スクール・ポリシー」令和４年３月策定より）
- ７割がエンジニアとしての就職を目指し、3 割がより高度なエンジニアを目指して進学している。また全体の 3 割が地元に就職している。
- 昭和 19 年設立、戦時中の岐阜県高山航空工業学校に始まり、終戦時に高山工業高校に新編、現在、機械工学科、電子機械工学科、電気工学科、建築インテリア工学科の 4 科から成り、社会と密接に関わりながら各科が編成されてきた。
- 歴史的には農業科を含めた飛騨実業高校であった時期もあり（現在は農業高校と分かれている）地域のものづくりを支えるところから、ぶれないで地域の人材を供給する教育を行っている。
- 建築インテリア工学科は木工なども含む。県外募集もしており、寮生活も準備している。

〇SDGs などについて教育現場で具体的に取り組んでいること

- 昨年度、道徳教育振興会議の研究指定校となったことがきっかけとなった。3 年生の課題研究に SDGs の理念を入れた目標を定めて卒業研究を行うこととなった。
- それに向けた SDGs セミナー、各科の授業で SDGs を取り入れている。
- 課題研究は授業の中で 3 年生が 4 人グループで卒業までに作品を完成させるが、SDGs の理念を入れてものづくりを実施することとした。
- 飛騨高山 SDGs パートナー登録制度でのパートナー登録を行ったことも大きかった。学校としては初登録（地元有力企業 100 社前後）で、地元で SDGs を掲げた企業との協力連携がいくつか実現している（例、クラブ活動としてホテルアソシアでの間伐材を活用したクリスマスツリー作成協力、講演依頼など）。無理なく取り入れられるゴールとして G4, G9, G11, G12, をメインターゲットとしている。
- 工業科が中心となって活動している工業技術部（クラブ活動）での SDGs としてはサテライトキャンパスという活動があり、地域との連携で研究開発を行っている。朝市や家具フェアイベントで商品を売りながらニーズを把握し、マーケティングや企画開発を実施している。製作技術だけでなく、経済的なノウハウや効率化などのマネジメント教育にもつながっている。例えば、さるぼぼ防犯ブザー、飛行機木製モデル、間伐材製品などの成果が出ている。
- 中学校、小学校の出前授業（プログラミングデバイスを用いた実践授業、小学生のものづくり体験）を行っている。この中では地域の持続可能性を意識していると考えられる。地域のものづくりの中で、すでに SDGs を実施していることで認識を新たにしている。
- むらはん（古民家を用いたこどもたちのたまり場）の整備にクラブ活動で製作した家具など協力している。

○地域連携における教育の役割

- 工業科の様々な地域との連携活動はすでに地域の持続可能を意識していると言える。
- 全国総合文化祭のカウントダウンボード製作を依頼されたり、文化財など炎の使えない場所での「あんどん」の LED 化（炎の揺らぎをプログラミング再現）を作成し、商品化に至っている。さらに高山まつりの屋台へ利用されている。
- 市の方からいろいろ頼まれるが、下請けにならないように、無理がないように、人材育成に資する目的が一致したものを対応している。
- いろいろな課題解決に引っ張りだこになっており、教育とのさじ加減を考慮する必要がある。能力のある集団として地域にとらえられている。しかし生徒の育成につながることが最も重要。

○持続可能な社会の構築と教育

- 様々な地域連携活動は、これまではローカル SDGs と意識してはこなかったが、工業系の先生方などは特に SDGs がアピールポイントになることを意識するようになっている。
- SDGs に当てはめて理解することが進んでいる。例えば木を使うなら間伐材を使ってみようかと考えるようになっている。
- SDGs パートナーシップ登録を通じて人の繋がりが広がり相乗作用が期待できる（例、高山 SDGs ウィークなどで交流）。
- 無理に SDGs に寄せる必要もなく、今までやってきたことを位置づけし直し、意識化することで ESD が進んでいると考えられる。
- 工業高校は実社会と繋がりながら学びがあるので、SDGs の土台がある。普通科では探究の授業のみ。実業系の学校は SDGs の意識化をしやすいのではないか。農業高校も同じような環境にある。実業高校は無理なく SDGs の取組をしているということは言える。
- 現実社会と常に接しているので地域とも連携しているし、普通科よりも SDGs は取り組みやすいかもしれない。そうしたことを学業に影響なく無理なくお膳立てするのが実業高校の教員の役割と考えられる。
- 岐阜県は工業高校や農業高校を重要視している。こうした実業高校は事実上地域の持続可能性を構築する人材を育てているので SDGs の理念を体現していることになる。そういう意味で意識せずに ESD を実施してきたとも考えられる。

○持続可能性の概念（ESD）が導入された新指導要領について

- 新指導要領の持続可能という言葉は「学ぶこと」を持続すると捉えていた。工業系でいうところの「開発」を持続的に行っていく、つまり学びを持続的に続けるという意味と考えてきた。本校で言えば「ものづくりが楽しい」生徒が増えていくことが重要と考えている。
- 指導要領からは読み取りづらいが、ESD では社会との繋がりや視野の広がりについて重要視されていると聞く。例えば探究学習では地域連携や様々なつながりを学ぶことを重要視されている。確かに探究活動は楽しいということはあり、新指導要領で現場における自由度が具体化されたイメージはある。

○地域のセクターとしての役割

- 前述したようにサテライトキャンパス、出前講座など地域のセクターとして機能している。これらは基本的に市の教育委員会からの依頼による。
- こうした地域との連携活動では、生徒がどれだけ成長できるかということが一番重要となる。
- 小学生への出前講座は、地元へのアピール、進学対象の候補として種をまくという効果もある。

○ESD、SDGs を推進するに当たっての課題

- 実業高校では現場で新しいことをやるということではなく、きっかけがあれば ESD として見直すことはできると言えるが、それよりも地域の課題に対して教育現場としていかに貢献できるかが大きいと感じている。

- この学校がなかったら地域が廃れてしまう。地域の持続性がダイレクトに関係している。中学生が減って定員割れが始まったことに危機感を抱いている。地域の魅力を維持することが重要。
- 地域経営として持続可能性を維持することが大きな課題。そのために教育現場としてできることを考えていきたい。SDGs という時流に乗ることも一つの方法かもしれない。

ヒアリング対象	**飯田女子高等学校教諭**
実施日	2023 年 12 月 1 日 9:00～11:00

ヒアリング結果

〇学校の特色について

- 学校法人高松学園に属する女子高等学校（普通科）である。他に短期大学、高校 2 校、認定こども園等から法人は構成されている。
- 本校は飯田下伊那地区で唯一の私立高校で、大きな特色として仏教浄土真宗の教えを根幹に置いていることがある。元々飯田市中心にある善勝寺の住職が始められた教育機関である。長野県の中でも仏教の教えを教育理念の根幹に置いているのは本校と姉妹校の伊那西高校のみとなる。
- 最近女子校は減少しているが、女子教育に力を入れているところも大きな特色としてあげられる。
- 仏教教育としての特徴は全学年週１回必ず仏教に関する授業があることで、3 年間通して学んでいくことになる。また春（はなまつり、仏さまの誕生を祝う）秋（報恩講、親鸞の亡くなった日、大谷大学から講師招聘などで実施）の宗教行事、毎週金曜日宗教科教員による法話（全校放送）、さらに 1 年生秋には東本願寺研修（一泊二日）があり、仏教に触れる機会が創られている。
- 仏教の教科内容としては、まず 1 年生では前々理事長の本を使った授業で、日常生活の中での様々なできごとに仏さまの教えが含まれているということ、例えば落ちているゴミがなぜ拾えないのかを考え容認するなど、宗教学の前段階を理解するという内容から始まる。２年生では親鸞の一生を学び、3 年生では歎異抄の勉強とやや専門的な内容を勉強するなど、普通の高校では触れることのない仏教学に触れることができる特徴がある。
- 生徒本人たちは仏教教育に触れられて良かったと言っている。他の人のために頑張ろうという育ち方をしているかもしれない。なお生徒の家の宗派とは無関係である。

〇SDGs などについて教育現場で具体的に取組んでいること

- 明示的に学校全体で実施しているとは言えない。ただ探究学習で SDGs をテーマにする子たちはいる。
- 明示的ではないものとしては、教育理念として「命を大事にする」があるので、自分中心ではなく社会的に目配りができるようにという形で教育が行われている。
- 女子しかいないので、自動的にジェンダー平等になる。やらなければいけないことはやるようになる。共学よりも性差別感覚が生じないのではないか。
- 17 ゴールに正確に合致しているわけではないが、根幹的な理念は仏教教育で行っていると考える。持続可能性という部分では、みんなで一緒に暮らしていくべきという教育がなされており、他者のためという規範を折に触れて訴えている。SDGs につながる規範教育を宗教教育で行っていると考えられ、ESD の基礎教育とも言えるのではないか。

〇持続可能な社会の構築における教育の役割

- 持続可能性が維持できない可能性など、若さ故に社会を知らないことが問題と考えている。こどもたちの社会は狭いので、若く狭い個人の価値観と社会の価値観とのつなぎが教育の役割で、学校がハブになるべきと考えられる。
- こうしたハブは、本当はたくさんあった方がいいと考えている。教員だけでなく、いろんな人が教えてくれた方が良い。生徒にとっては「何を」教えてくれるかだけでなく、「誰が」教えてくれる

かが重要で、多くの人格とつなぐツールが教育の一つの役割と考える。そういった意味で学校として多様な人たちや価値観と生徒の間をつなげたい。

- こうしたことが持続可能な社会構築で重要なのではないか。ひとの立場を想像する、つまり共感性の涵養はESDの根幹だと思う。

〇持続可能性の概念（ESD）が導入された新指導要領について

- いろいろ抽象的なことが書かれているが、何を求められているのか十分把握できているとは言えない。教科指導では、とりあえず共通テストで点数をとらすことがまず先になってしまう。
- 担当の社会科で言えば、たくさんしなければならないことができ、歴史総合に加え、世界史探究、日本史探究もあるなど、科目数が増えて以前に比べて複雑化し時間数も増えて負担感がある。
- （社会科では）模試やテストの問題が変わってきている。模試や共通テストの対応をしようとすると、これまで暗記至上主義だったのに比べて、文章や図表を読み取る力や表現力が重要となってきていることがわかる。
- こうした対応の中でだんだんわかってきたのは、教科書を教えていてもなかなかわからないが、試験を作成する人は学習指導要領をよく理解していて、理念に見合った問題を作成しているのだろうということである。
- 指導要領からや教科書から直接ではなく、試験対策などから求められる人づくりにおける能力を推察している状況にあると言える。

〇ESD等を通じた連携

- （10月に実施した）中部大学と連携したデジタルアースを活用したESDプログラムの授業は大変意義があった。図表（統計グラフ、GISによる地図）をどう読み、どうつなげて理解し、表現するか、という能力を養うことになり、まさに新指導要領が求めている内容だったのではないか。
- 家庭科に力を入れているが保育園実習の連携を行っている。また飯田短大との連携授業で社会福祉協議会の体験授業なども実施している。
- 任意の生徒だが、学輪IIDAの夏のプログラム参加もしている。
- 探究学習選択（Eクラス、今年は８人）の生徒は企業や行政、他の高校中学などとの繋がりを作って（個人探究）探究学習を行っている。大学の卒業研究に近く、個人探究として実施している。３年間通して探究している。
- （参考）コース構成：総合コース、進学コース（Sクラス：クラブ活動選択、Eクラス：探究学習選択、少人数）

〇今後ESDを推進するに当たっての課題

- 私立高校は、何ができるかという問題の中で、理念を考えるには現場に余裕がない。学力を上げることがとりあえず問題となる。
- ESDにたどり着けるかどうかがあやふやで、現場と乖離している。指導要領を読んでもわかりにくい。要求されているカリキュラムと指導要領の理念の整合性がわかりにくい。

ウ 中小企業経営者等を対象にしたヒアリング

ヒアリング対象	**アドバンスト・ロジスティックス・ソリューションズ株式会社**
実施日	2023年6月28日13：00～14：00
ヒアリング結果	

〇現在のSDGsの取組について

- 明示的にはこれまでSDGsの取組はなかった。
- 新入社員研修に昨年度からSDGsの講座を導入するようになった。

〇そのきっかけや理由について

- 学校ではSDGsについて習っているのに自分の会社が何をやっているかと問い直した。SDGsがわかって将来働いてもらいたいとも思った。このように大人が働く現場でSDGsがわからないのは今後問題になると個人的に考えたことから、担当している新入社員研修に導入しようと提案したことがきっかけ。

〇取組による変化や成果

- 新入社員研修を通じて、関係する社員がSDGsの取組について意義を感じたり興味をもったこと。ただなかなか広がらないので、会社でのSDGsの取組の立ち位置を確認することが必要と考えている。

〇取組で今後期待されること

- 自分で考えて、お金を稼ぐだけでなく自分でSDGsを感じて仕事ができることが理想だと思う。研修を通じて、会社の事業とSDGsの関係性を議論して、社内に広がることが今後期待していることである。これからSDGsの取組の基盤づくりをしたい。

〇SDGsを推進するにあたって社内教育のESDの必要性について

- 中堅社員研修、監督職研修があるので、新入社員研修で取り上げたSDGs講座を広げていきたい。できればワークショップの形で定着させたい。

〇SDGs/ESDの取組の課題

- 会社として地域や社会に貢献するSDGs取組を展開し活動が見えるようにしたい。会社にとってのメリットが見えにくいのが課題。愛知県の登録制度もあるが、興味のある人しか見ないのではないか。一方で学生の就職活動PRには効果があるかもしれない。体制構築に社内で積極的協力があるとは言えない（もっとも、やりたくないわけではなく、抵抗があるわけでもない）。

〇SDGs/ESDの取組の支援

- 会社として名前も出るので社会に対してアプローチしたい。そのため今後イベント活動するときに、地域との連携について広報やマッチングなどの支援、ネットワークへの参加や構築の支援、活動結果の報告の場の設定の支援などがあるといい。
- 他の会社の取組についても知りたい。勉強会などがあるといい。オンラインでもいいと思う（会社としてはハードルが低い）。ノウハウの共有があるとありがたい。

〇SDGs/ESDの取組の今後の期待

- 今後、社会的にSDGs/ESD取組が推進されていくことが、社会をよくすることにつながると思う。

〇その他

- SDGsカードゲームを活用したい。本音を聞き出すために採用活動に利用することも考えられる。

ヒアリング対象	**株式会社おとうふ工房いしかわ**
実施日	2023年7月25日13:30～15:00

ヒアリング結果

〇現在のSDGsの取組について

- 元々行ってきた企業理念（環境、農業、地域、食文化）にあとからSDGsが乗っかってきたという印象。特別なことをしているつもりはない。Web 上に掲載している取組は愛知県登録をしたもので、特にこれでアピールするつもりで載せたものではない。
- 豆腐という基礎食品を売っていることから、お母さん方がお客であり、安心安全な商品を適正価格で提供することが求められた。そこで現会社の創業時から地元産、国産の大豆を使って、安心できるお豆腐を供給することにしたのが原点。
- 国内産の大豆で豆腐をつくるには、地元の農家を回って地域の大豆を調達しなければならない。地元では米、麦、大豆の3毛作が2年間で行われており、大豆を作ってもらおうとすると麦が売れなければならない。そこで麦を用いたお菓子やビールなどの製造に展開していった。

- こうした地元農家との face to face の関係性がネットワークとなり関係業者を含めて事業コミュニティが成立している。その、いわば「田舎のコミュニケーションネットワーク（聞き取り者の呼称）」は将来的な持続可能性に少しずつ貢献していると考える。
- 協力企業が 30 社ほど集まって親睦会を行っているが、そこで我が社の企業指針の発表を行っている。それに従ってほしいとかではなく、こんな会社なので仲良くしてほしいというコンセプト。コミュニケーションネットワークに一役買っている。
- CSR ではなくて CSV として事業自体が食を通じて地域社会や環境に貢献するのが当たり前だと思っている。そのため食育や障害者対応などの本業とは言えない活動もやっていくことにしている。
- 昔の日本の商家の規範であった、目立たず地域のために仕事して食べていく、「三方良し」の理念を実現することが企業としての方針と言っていい。

〇SDGs/ESD の取組の課題

- SDGs のバッジの円形マークは違うと思っている。その 17 のうちどれかに取り組めばいいというものではない。ウェディングケーキモデルのように基礎に環境があってその上に社会、経済があるというのが本来だと思う。そしてパートナーシップが一番上に書いてある、その形が重要なのではないか。
- SDGs で持続可能性の重要性が世界で共有されたことは評価に値するが、企業で SDGs の取組をするということが上滑りしていると思う。17 のゴールのうちこれとこれをやって、残りはこれとこれというアプローチは持続可能性の理念に一致していない（筆者解釈：SDGs ウォッシュ）。最も重要な G17 パートナーシップがおろそかにされている。
- ゴールというのは本当か、ずっと続けていく必要があるし、そこに到達しておしまいという感じがする。自分ができることは何かをわかって行うことが重要で、できることを続けていくことで社会がそのように変わっていくというのが理想なのではないか（筆者呼称：究極のフォアキャスティング主義）。課題は全部解決されるということはなくて、次々出てきた課題を解決し続けるのが社会の営みではないか。

〇SDGs を推進するにあたっての ESD の必要性について

- SDGs の目標を覚えるのではなくて、誰一人取り残されず持続可能な社会をつくるという理念が大切である。しかし子供のうちに「いたわり」など人間が本来持たなければいけない資質を育む「徳育」がおろそかになっていると考える。そのためには大人が時間をかけなければいけないのではないか。
- 当社の地域活動で重視している「食育」では、地域、企業、子供が一緒になって学ぶということを行っている。障害者、お年寄り、子供たちなど、社会的弱者を交えて、様々な人々が「結びつく」ことができるようになるということがここでの教育（ESD）の本質ではないか。

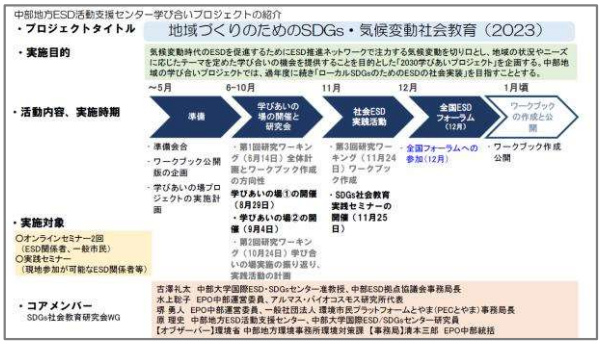
〇SDGs/ESD の取組であったらよい支援について

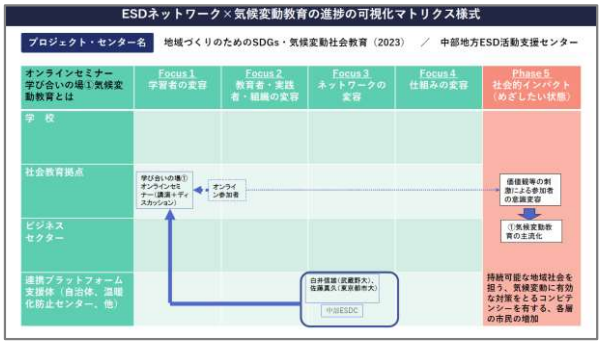
- 一つは本当の SDGs の理念（アジェンダの理念）をしっかり情報発信するとともに、全員参加ができるフラットに意見交換できる場づくりが必要と考える。
- 子供から老人まで、どんな人でも腑に落ちるような SDGs 理念の訳語を作って貰えると、持続可能な社会の重要性を説明しやすくなる。

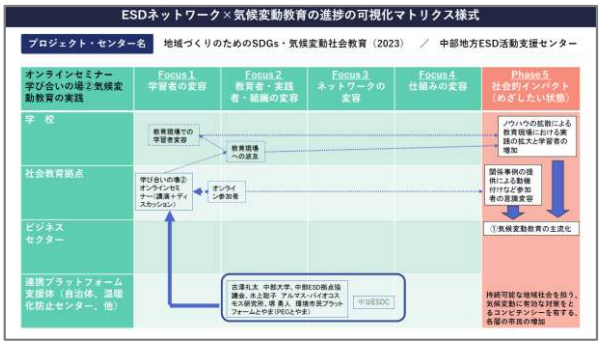
(8) 地域循環共生圏への協力、全国センターとの連携協力

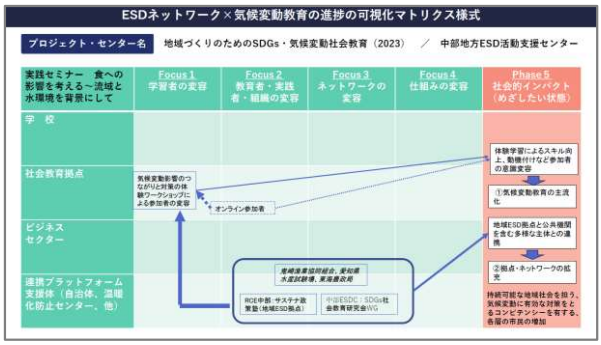
- ESD 業務を実施するにあたっては、「地域循環共生圏」を実現する人づくりの促進にも資することを考慮しつつ取り組んだ。
- 全国センターの実施する会議に出席すると共に、必要な情報提供、資料作成等に協力し、ESD 推進ネットワークの活動状況調査等にも協力・対応した。
- また、関係会議に出席する際には、必要な情報提供、資料作成等に協力し、ESD 推進ネットワークの活動状況調査等にも協力・対応した。

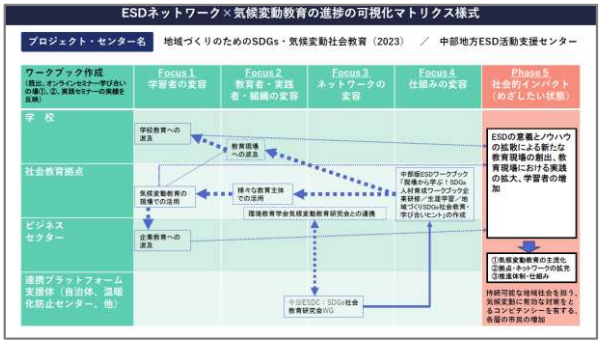
【第 2 回 ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会への提示資料】











7 ESD/EPO の行事を通じた行動の変容の把握

(1) 代表的な行事後の行動変容の把握

- EPO・ESD 業務における代表的な行事後に、開催にあたり連携・協力した団体、登壇者等に簡易ヒアリングを実施し、業務の成果（関係者や参加者等の行動変容、地域側の反応等）についてとりまとめた。

1	行事名		**2024 年 1 月 16 日開催 環境へのアプローチを活かした鳥羽の観光創発ミーティング**
	ヒアリング	対象	鳥羽市役所観光商工課観光係　北橋氏、鳥羽市温泉振興会　山下氏
		方法	メールヒアリング
		内容・結果	● さっそく参加された方からは、現地で事業者同士の交流が生まれ、今後の鳥羽市における観光創発に向けたプロジェクトを始動したいという意見が出ています。 【山下氏がとりまとめた参加者の声（一部を抜粋)】 ● 他施設の皆様の発表内容は当社として非常に興味深く、早速に社内で共有して今後に生かせればと考えております。 ● 最後のまとめでも発表させていただきましたが、連携は必須ですね。これからも近隣施設さまと協力をしながら鳥羽の発展ができればと考えます。 ● 皆さんの取り組みをお聞きして、改めて鳥羽市は業界の垣根を超えた関係づくりからつながる資源の保護、一歩先を進んでいると感じました。自分のいる地域のことを見つめ直すきっかけになりそうです。
2	行事名		**2024 年 1 月 13 日開催 食育と農による持続可能な地域づくりを考えるワールドカフェ**
	ヒアリング	対象	長野県 NPO センター　山室氏、阿部氏、吉田氏
		方法	面談によるヒアリング
		内容・結果	● 様々な活動団体が出会うきっかけとなった。イベントで初めてお互いの活動がわかる交流会となった。 ● 催しの案内が 2 団体から共有され（味噌づくり、すいとんづくり）、それぞれに参加することで交流の輪が広がった。 ● 交流会で耕作放棄地を使いませんかという呼びかけも行われ、具体的な交渉が始まっている。 ● 気候変動で付加価値が落ちているリンゴ農家が付加価値の高いブドウへの転換を模索しているところに作業所と連携を模索するなど、農福連携の動きも見られる。 ● キッチンから畑に、というテーブル to ファーム・ファーム to テーブルのプラットフォームとして課題解決ネットワークが動きはじめており、長野県 NPO センターがお手伝いをしている状況となっている。
3	行事名		**2023 年 11 月 18 日～19 日開催 南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク ESD ダイアログ 2023**
	ヒアリング	対象	伊那市商工観光部観光課エコパーク・ジオパーク推進係　酒井氏、小澤氏
		方法	電話ヒアリング
		内容・結果	● 参加したジオガイドは ESD という言葉を初めて知ったと聞いている。ジオパークを案内する上で ESD の要素があることがわかったことで、例えば来年度伊豆で行われる全国大会で ESD がテーマになるときに南アルプスジオパークの話ができる下地ができたと思われる。

			● 事務局として、ジオパークエリアに関係する他の市町村などで行われている ESD の様子がよく分かった。今後松本大学が飯田市で連携している事業と協働したり、伊那市内でも長谷中学校と連絡を取るようになったので連携した事業を検討したい。 ● イベントの周知を教育関係者に広く行ったことから、イベントに参加できなかった教育関係者に対しても ESD の観点からジオパークの活用について話しやすくなったと考えられる。今後連携していく芽が作れたのではないか。
4	**行事名**		**2023 年 8 月 29 日、9 月 4 日開催 地域づくりのための気候変動社会教育～学び合いの場①、②**
	ヒアリング	対象	中部大学国際 ESD・SDGs センター准教授、中部 ESD 拠点協議会事務局長　古澤先生 アルマス・バイオコスモス研究所代表　水上氏 一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま事務局長　堺氏
		方法	オンライン及び面談（個別ヒアリング）
		内容・結果	● 白井先生の気候変動教育の話は広い視野で現実的な提案だったと思う。行政が変わるチャンスだと思われた。（古澤先生） ● 参加した福井県坂井市の市民協働の担当からは、非常に興味深かったと聞いている。特に行政の社会教育、地域の社会教育、学校教育などが一体になって推進されることがいかに重要か再認識したとのこと。こうした連携を土台にして厚みを持った人材育成を市行政として展開したいと、モチベーションが得られたようであった。（水上氏） ● 福井県坂井市の取組の内容が非常に刺激的だった。やりっぱなしにしない社会 ESD として、目的を見失わないように今後の活動企画に活かしたい。（堺氏）
5	**行事名**		**2023 年 11 月 25 日開催 実践セミナー　食べ物が変わる?!気候変動と私たちの暮らし**
	ヒアリング	対象	中部大学国際 ESD・SDGs センター准教授、中部 ESD 拠点協議会事務局長　古澤先生 アルマス・バイオコスモス研究所代表　水上氏 一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま事務局長　堺氏
		方法	オンライン及び面談（個別ヒアリング）
		内容・結果	● 一般市民、行政、漁協など違う立場の参加者が同じ場で交流・議論したことは大きな成果だった。いつもは同じセクター内に議論に終始してしまうのが違うセクターがどんな考えを持っているかを理解することができた。 ● 漁協の人の理解が深まったように見受けられた。一次産業と持続可能性とのつながりに気づかれたように思う。 ● 参加した高校生が興味をもったようで、それ以後中部 ESD 拠点（共催団体）のイベントに参加するようになった。 ● 参加した市民と漁協とのコラボが生まれ、新たな教材づくりが始まっている。（古澤先生） ● プログラムの流れが大変良かった。食をテーマにした午前中のインプット、お昼の関係性を学びながらの昼食と見学、そして午後のミステリーワークショップという内容は、福井県坂井市の担当者に内容紹介したところ、ぜひ参考にしたいとのことだった。 ● お昼の地元食材を使った昼食会は参加者にとって非常に有効に作用した。午後のワークショップの下準備の一環としてのインプットの他、その場の交流で場が和み拡大版のアイスブレイクとしても機能した。 ● 食をテーマで、さらに伊勢三河湾地域に絞ったミステリーワークショップツールの開発は大きな成果で、これからも地域レベルのツールが作られるきっかけになったと考える。（水上氏）

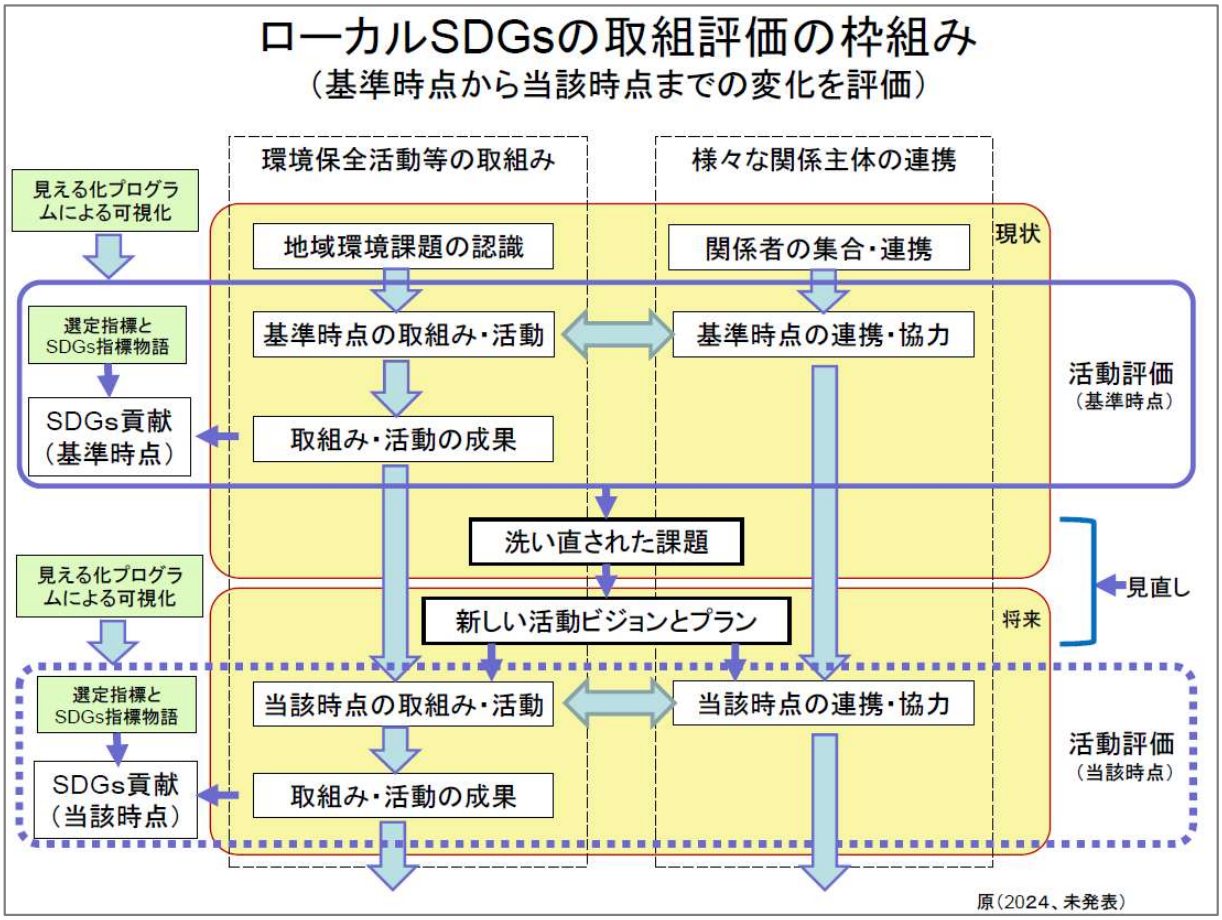
			● 海苔養殖と水質保全による貧栄養の話題は環境の「つながり」という点で大きなインパクトがある。今後事例として使っていきたい。（堺氏）
6	行事名		**SDGs 社会教育研究ワーキング第 1 回 2023 年 6 月 14 日開催、第 2 回 2023 年 10 月 24 日開催、第 3 回 2023 年 11 月 24 日開催、及び ESD ワークブック作成**
	ヒアリング	対象	中部大学国際 ESD・SDGs センター准教授中部 ESD 拠点協議会事務局長　古澤先生 アルマス・バイオコスモス研究所代表　水上氏 一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま事務局長　堺氏
		方法	オンライン及び面談（個別ヒアリング）
		内容・結果	● 第 1 回研究会のペルソナワークショップはワークブックのニーズを検討するためのものだったが、相手の立場を感じる新たな視点の手法として非常に有用だと感じた。違う立場で考えるという方法は ESD の深化にとって重要なのではないか。（古澤先生） ● 研究会の開催により作成されたワークブックには大変期待している。構成が良い組立となっており、地元で行っている課題解決型の取組に活用したい。活用機会は多いと思う。（水上氏） ● 学び合いの場が課題解決の行動につながり、そこがまた学び合いの場となるスパイラル構造が社会 ESD であることの意識が深まった。そのベクトルの中でワークブックを自分の取組の中で活用したい。（堺氏）
7	行事名		**2024 年 2 月 16 日開催 地域循環共生圏フォーラム in HOKUSEI「北勢エリアで“循環”の輪を広げよう！」**
	ヒアリング	対象	一般社団法人ネクストステップ研究会　寺田氏
		方法	メールヒアリング
		内容・結果	ネクストステップ研究会の各チームからのコメント（※一部抜粋） 《ESD チーム》 ● 問題をいかに自分ごととして捉えることができるか。ESD のお手本になる方々（勉強させていただきました）の集まりだったと感じます。 ● 地域の取り組み紹介、ワークショップ後の発表で必ず出てきたキーワードが『人とのつながりがあっての地域循環』でした。 ● “サスティナブルな社会を目指して行動できる人を増やす教育”重要課題だなと改めて感じます。今回のフォーラムは傍観者から当事者への意識作りがわかりやすかったので、同じ内容で参加者未成年限定フォーラムも開催できれば新しい発見ができそうです。 《里山チーム》 ● 先ずは、ネクストステップ研究会が共催という立場で今回のフォーラムを開催出来たことは、ネクストの活動全体の大きな第一歩であり、ネクストのプレゼンスを高めるためにも大変意義のあることだと思う。 ● 今後のネクストの重要な取り組みとしては、今回のフォーラムをきっかけとして、今回参加の方々と関係者、更にはその先に繋がっておられる方々の中から今後地域循環の協働が出来るパートナー発掘や北勢エリアでの循環と循環の繋がりへと広げて行くことである。 ● 里山チームとしても、具体的に竹林整備を基にした地域経済循環の構築を計画し、地域社会課題及び地域環境課題の同時解決も目指し、ネクストのひとつのビジネスモデルとなるよう積極的に活動していきたい。 《アサリチーム》 ● アサリチームは、アサリという地域資源を活用してローカル SDGs 事業を生み出そうとする活動であり、今回のフォーラムのテーマに合致している。豊かな海の実現と

			いう環境面と経済面の取組みが、市民が集う浜づくりといった社会面や経済面の更なる改善につながる好循環を生めば、地域の持続可能性が高まる。まだ空想の世界のようにも思えるが、私たち市民活動団体にとっても経済面、具体的にはソーシャルビジネス化や事業者との協働に向けての課題に目を向ける重要性が増している。ただ今回のワークショップで共有された情報を見ると、経済面の課題はまだ断片的のように思えた。環境、社会、経済課題を同時解決するためには、私たち自身が経済面も意識した取組みを必要としているのではないか、このことを改めて再認識させられたワークショップで、とても有意義であった。

(2) 地域循環共生圏及びローカル SDGs 実践状況等の評価

ア 「SDGs 指標物語」によるローカル SDGs の取組評価の枠組み

- ローカル SDGs 実践状況等の評価指標ツールの作成業務として、昨年度から EPO 中部は下記の枠組みによる「SDGs 指標物語」の構築に取り組んだ。



イ 試行的な実践（２事例）

（ア） PF 丹南：ローカル SD クリエーションによる里山整備副産物を利用した海洋資源保全に関するコンソーシアムの構築（福井県丹南エリア）

①評価指標の選定と SDGs 指標物語

評価指標の選定とSDGs指標物語　活動１、２、３（2024年1月選定修正）

	活動１	活動２	活動３	
名称	里山の保全活動	里海の保全活動	活動効果の検証と事業化	
活動内容	竹林整備体験、竹で地元のお米を炊いて試食,アウトドアクッキングの石窯整備、提供サービスメニューの開発	竹林整備で出た竹で漁礁の作成、作成した漁礁の設置、スノーケリングによる漁礁の観察会の開催	効果的な漁礁の開発・制作、魚礁の効果の検証、じゃらん（リクルート）での予約体制整備、Facebookグループポータルサイトの開設	
地域循環共生圏貢献	【環境】	【環境】	【社会】	【経済】
採用指標	侵入竹林境界整備延長（m）	漁礁の設置数（箇所）	体験プログラムの参加者数（人）	観察会等収益事業プログラム運用売上（円）
貢献SDGs指標	6.6.1、15.1.1			8.9.1
貢献SDGsターゲット	6.6、15.1	14.2	4.7	8.9
貢献SDGsゴール	G6、G15	G14	G４	G８

1

活動別評価指標の検討（活動１）

活動名		里山の保全活動		
活動課題		モウソウチク林の拡大によるで里山の荒廃		
活動内容		竹林整備体験、竹で地元のお米を炊いて試食		
活動成果予想		荒廃した竹林の環境向上、自然環境教育の普及・啓発、竹の利用価値の再認識、収益プログラムとしての運用		
地域循環共生圏貢献		【環境への貢献】 荒廃した里山の保全 里山資源利用の再認識	【社会への貢献】 環境教育の普及啓発 地元農産物（米）などの地産地消のPR	【経済への貢献】 活動団体の自活的資金調達 活動団体の活動持続性の確保 グリーンツーリズムの活性化
評価指標１	指標案	侵入竹林境界整備延長（m）	竹林整備、お米試食体験者数（人）	竹林整備、お米試食体験売上（円）
評価指標２	指標案		イベント消費地元産食品量（kg）	
評価指標３	指標案			
採用指標（案）		侵入竹林境界整備延長（m）	竹林整備、お米試食体験者数（人）	竹林整備、お米試食体験売上（円）

2

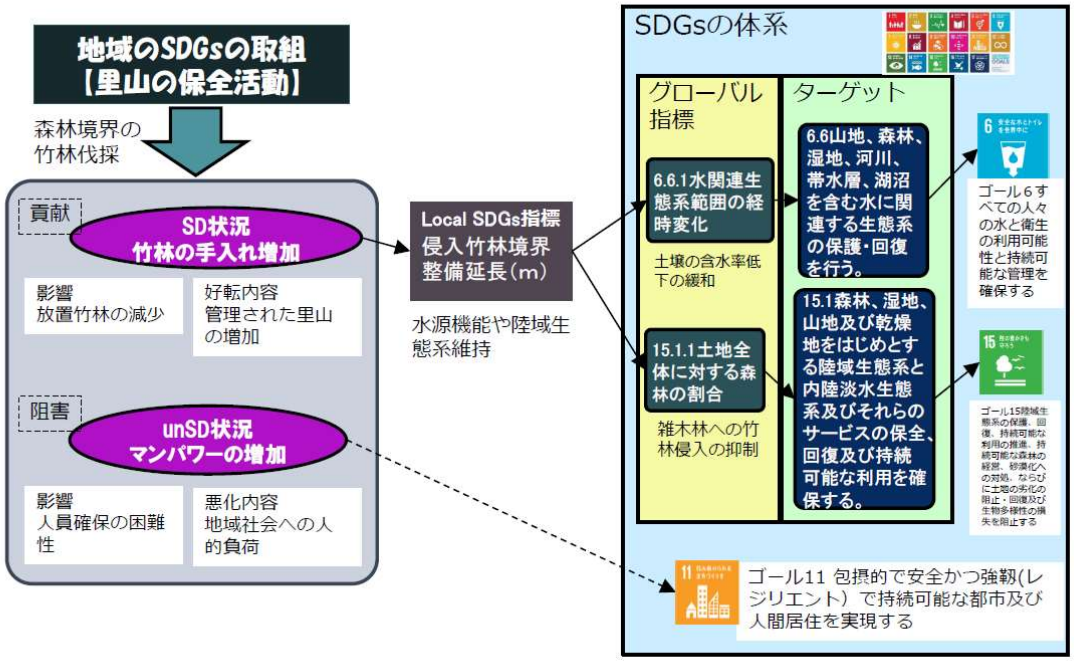
SDGs指標物語：活動１侵入竹林境界整備延長（m）の指標の作成結果

活動1	里山の保全活動
貢献分野	環境
選定指標	侵入竹林境界整備延長（m）
Local SDGs指標の概説	侵入竹林境界整備延長（m）「ゴール6すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する15陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する」の達成に寄与する地域活動を反映するLocal SDGs指標として選定した。 整備竹林面積（ha）は地域の「水源機能や陸域生態系維持」への貢献を表す。
SDGs への関連性	侵入竹林境界整備延長（m）が増加すると、「土壌の含水率低下の緩和」という関連性から、【指標6.6.1水関連生態系範囲の経時変化】に影響があり、【ターゲット6.6山地、森林、湿地、河川、帯水層、湖沼を含む水に関連する生態系の保護・回復を行う。】の達成に貢献する。また、「雑木林への竹林侵入の抑制」という関連性から、【指標15.1.1土地全体に対する森林の割合】に影響があり、【ターゲット15.1森林、湿地、山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全、回復及び持続可能な利用を確保する。】の達成に貢献する。
地域の取組との関連性	侵入竹林境界整備延長（m）のために『里山の保全活動』を行えば、『竹林の手入れ増加』という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、『放置竹林の減少』の影響により『管理された里山の増加』につながる。一方、「マンパワーの増加」という持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、「人員確保の困難性」の影響により「地域社会への人的負荷」につながることで、「ゴール11 包摂的で安全かつ強靭(レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する」に対する阻害要因となり得るため、対策が必要となる。

3

SDGs指標物語*チャート：侵入竹林境界整備延長（m）

出典：原理史・平川翼・川村貴也・杉田暁・伊藤恭彦(2023)：地域活動推進のためのSDGs指標物語, 環境共生,Vol39,No.1, pp.66-76



協力：中部大学 国際ＧＩＳセンター　問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

4

活動別評価指標の検討（活動２）

活動名		里海の保全活動		
活動課題		里海の水産資源の生息場の減少		
活動内容		竹林整備で出た竹で漁礁の作成、作成した漁礁の設置		
活動成果予想		海洋生物の生息場や産卵床の創出、自然環境教育の普及・啓発、竹の利用価値の再認識		
地域循環共生圏貢献		【環境への貢献】 竹林整備で出た竹による海洋生物の生息場や産卵場の創出による海洋生態系の保全	【社会への貢献】 地元漁協やダイビングショップとの連携構築 里山と里海保全のつながりの創出	【経済への貢献】
評価指標１	指標案	漁礁の設置数（箇所）		
評価指標２	指標案			
評価指標３	指標案			
採用指標（案）		漁礁の設置数（箇所）		

5

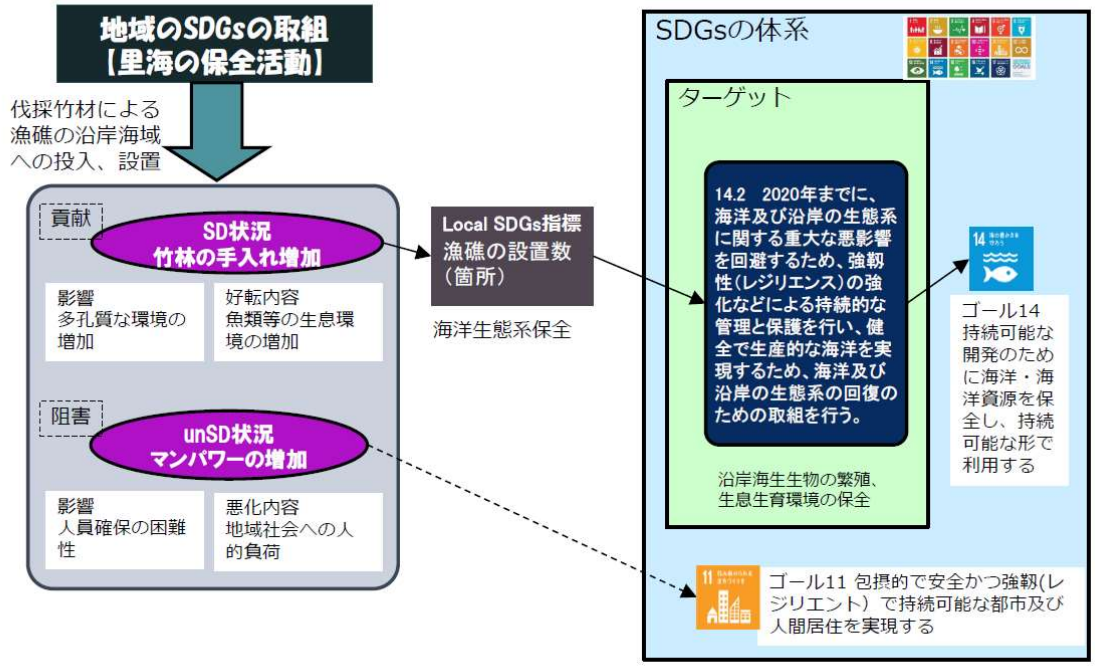
SDGs指標物語：活動２漁礁の設置数（箇所）の指標の作成結果

活動2	里海の保全活動
貢献分野	環境
選定指標	漁礁の設置数（箇所）
Local SDGs指標の概説	漁礁の設置数（箇所）は「ゴール14 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」の達成に寄与する地域活動を反映するLocal SDGs指標として選定した。漁礁の設置数（箇所）は地域の「海洋生態系保全」への貢献を表す。
SDGs への関連性	漁礁の設置数（箇所）が増加すると、「沿岸海生生物の繁殖、生息生育環境の保全」という関連性から、【ターゲット14.2 2020年までに、海洋及び沿岸の生態系に関する重大な悪影響を回避するため、強靭性（レジリエンス）の強化などによる持続的な管理と保護を行い、健全で生産的な海洋を実現するため、海洋及び沿岸の生態系の回復のための取組を行う。】の達成に貢献する。
地域の取組との関連性	漁礁の設置数（箇所）のために『伐採竹材による漁礁の沿岸海域への投入、設置』を行えば、『伐採竹材漁礁の定置』という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、『多孔質な環境の増加』の影響により『魚類等の生息環境の増加』につながる。一方、「マンパワーの増加」という持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、「人員確保の困難性」の影響により「地域社会への人的負荷」につながることで、「ゴール11 包摂的で安全かつ強靭(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する」に対する阻害要因となり得るため、対策が必要となる。

6

SDGs指標物語*チャート：漁礁の設置数（箇所）

出典：原理史・平川翼・川村真也・杉田暁・伊藤恭彦(2023)：地域活動推進のためのSDGs指標物語, 環境共生,Vol39,No.1, pp.66-76



協力：中部大学 国際ＧＩＳセンター　問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

7

活動別評価指標の検討（活動３）

活動名		活動効果の検証と事業化		
活動課題		竹の漁礁としての効果の検証 体験プログラムの開発		
活動内容		効果的な漁礁の開発・制作、魚礁の効果の検証、じゃらん（リクルート）での予約体制整備、Facebookグループポータルサイトの開設		
活動成果予想		里山資源のワイズユース、水産資源の増加、流域連携保全の構築、収益事業としての運用、観光産業の活性化		
地域循環共生圏貢献		【環境への貢献】 里山の副産物を資源として里海保全に利用することによる資源循環	【社会への貢献】 里海の自然環境教育の普及・啓発 流域連携保全の構築	【経済への貢献】 収益事業のプログラム運営による地元観光業への経済効果 グリーンツーリズムの活性化
評価指標１	指標案		体験プログラムの参加者数（人）	観察会等収益事業プログラム運用売上（円）
評価指標２	指標案		連携団体数（団体）	
評価指標３	指標案			
採用指標（案）			体験プログラムの参加者数（人）	観察会等収益事業プログラム運用売上（円）

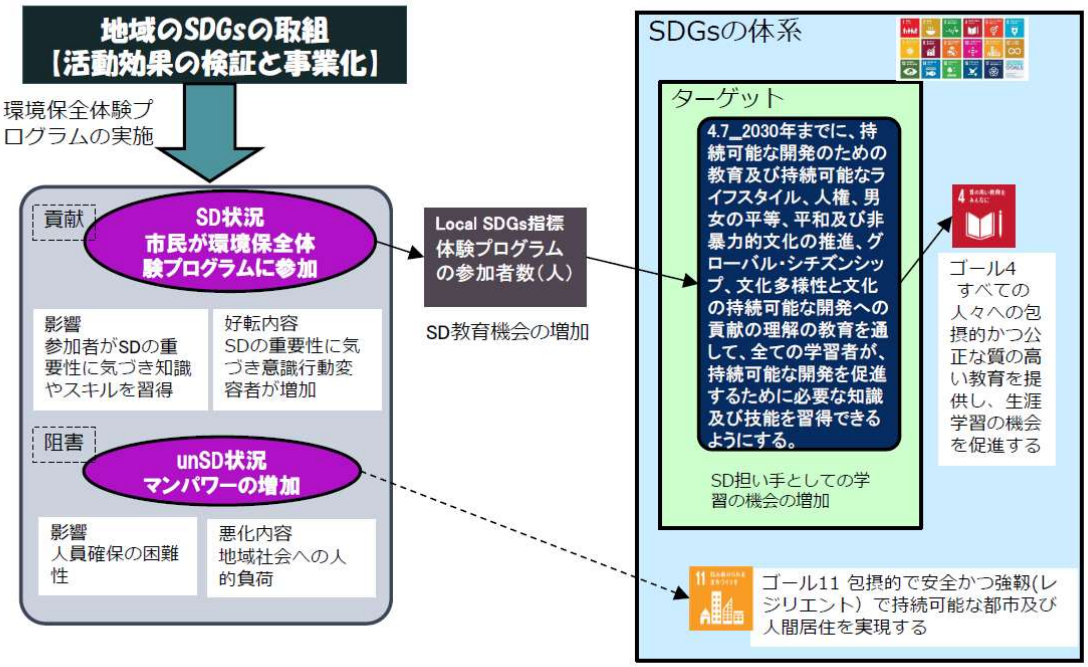
8

SDGs指標物語：活動３　体験プログラムの参加者数（人）の指標の作成結果

活動３	活動効果の検証と事業化
貢献分野	社会
選定指標	体験プログラムの参加者数（人）
Local SDGs指標の概説	体験プログラムの参加者数（人）は「ゴール4 すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」の達成に寄与する地域活動を反映するLocal SDGs指標として選定した。体験プログラムの参加者数（人）は地域の「SD教育機会の増加」への貢献を表す。
SDGs への関連性	体験プログラムの参加者数（人）が増加すると、「SD担い手としての学習の機会の増加」という関連性から、【ターゲット4.72030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。】の達成に貢献する。
地域の取組との関連性	体験プログラムの参加者数（人）のために『環境保全体験プログラムの実施』を行えば、『市民が環境保全体験プログラムに参加』という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、『参加者がSDの重要性に気づき知識やスキルを習得』の影響により『SDの重要性に気づき意識行動変容者が増加』につながる。一方、「マンパワーの増加」という持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、「人員確保の困難性」の影響により「地域社会への人的負荷」につながることで、「ゴール11 包摂的で安全かつ強靭(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する」に対する阻害要因となり得るため、対策が必要となる。

SDGs指標物語*チャート：体験プログラムの参加者数（人）

出典：原理史・平川翼・川村真也・杉田暁・伊藤恭彦(2023)：地域活動推進のためのSDGs指標物語, 環境共生,Vol39,No.1, pp.66-76



協力：中部大学 国際ＧＩＳセンター　問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

10

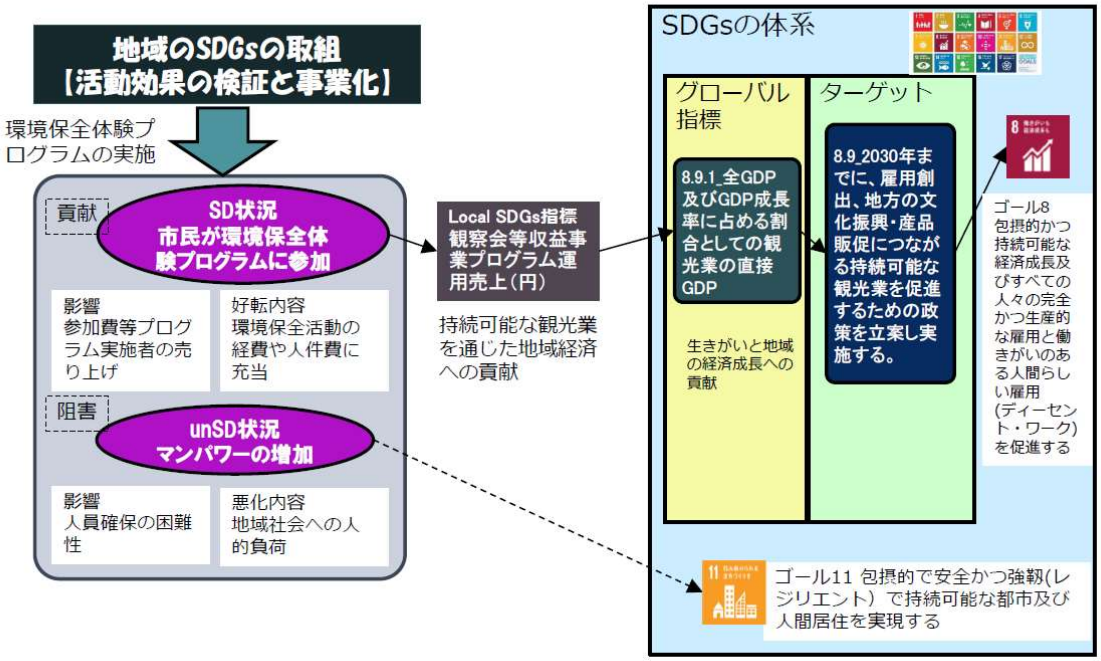
SDGs指標物語：活動３　観察会等収益事業プログラム運用売上（円）の指標の作成結果

活動３	活動効果の検証と事業化
貢献分野	社会
選定指標	観察会等収益事業プログラム運用売（円）
Local SDGs指標の概説	観察会等収益事業プログラム運用売上（円）は「ゴール8包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する」の達成に寄与する地域活動を反映するLocal SDGs指標として選定した。観察会等収益事業プログラム運用売上（円）は地域の「持続可能な観光業を通じた地域経済への貢献」への貢献を表す。
SDGs への関連性	観察会等収益事業プログラム運用売上（円）が増加すると、「生きがいと地域の経済成長への貢献」という関連性から、【指標8.9.1全GDP及びGDP成長率に占める割合としての観光業の直接GDP】に影響があり、【ターゲット8.92030年までに、雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する。】の達成に貢献する。
地域の取組との関連性	観察会等収益事業プログラム運用売上（円）のために『環境保全体験プログラムの実施』を行えば、『市民が環境保全体験プログラムに参加』という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、『参加費等がプログラム実施者の売り上げ』の影響により『環境保全活動の経費や人件費に充当』につながる。一方、「マンパワーの増加」という持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、「人員確保の困難性」の影響により「地域社会への人的負荷」につながることで、「ゴール11 包摂的で安全かつ強靭(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する」に対する阻害要因となり得るため、対策が必要となる。

11

SDGs指標物語*チャート：観察会等収益事業プログラム運用売上（円）

出典：原理史・平川翼・川村真也・杉田暁・伊藤恭彦(2023)：地域活動推進のためのSDGs指標物語, 環境共生,Vol39,No.1, pp.66-76



協力：中部大学 国際ＧＩＳセンター　問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

12

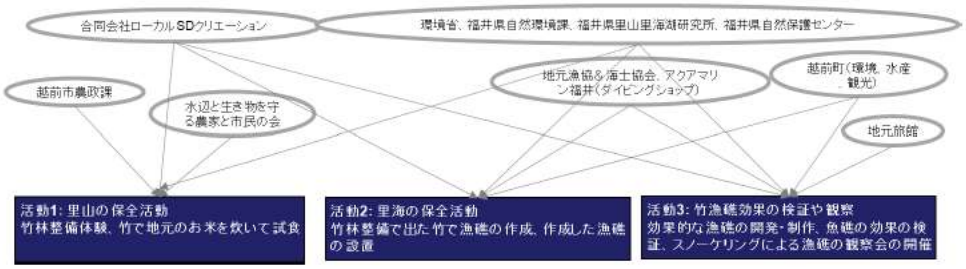
②活動評価

里山整備副産物を利用した海洋資源保全に関するコンソーシアムの構築
活動評価　2022 年 3 月～2024 年 2 月

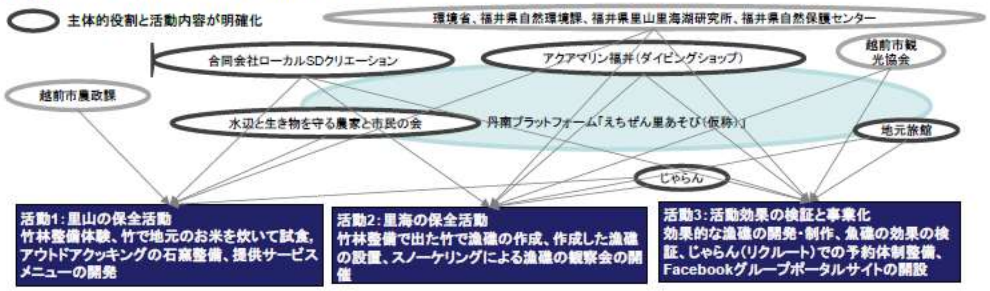
環境省 EPO 中部 2024 年 2 月 29 日

評価の視点 1：関係主体の変遷による協働と活動の推進

【2022 年 3 月時点のもくろみ】思い描いていた段階であり、具体的な役割は明確ではなかった。



【2024 年 2 月時点の状況】当所に比べ、誰が何をするのかがはっきりし、活動内容が充実化、明確化してきている。丹南プラットフォーム「えちぜん里遊び（仮称）」のビジョンが共有され各々の活動主体が連携しながら具体的な活動に取組む状況となってきた。



評価の視点 2：選定指標による評価

小規模とはいえ、各指標とも順調に増加している。

		活動1	活動2	活動3	
名称		里山の保全活動	里海の保全活動	活動効果の検証と事業化	
活動内容		竹林整備体験、竹で地元のお米を炊いて試食,アウトドアクッキングの石窯整備、提供サービスメニューの開発	竹林整備で出た竹で漁礁の作成、作成した漁礁の設置、スノーケリングによる漁礁の観察会の開催	効果的な漁礁の開発・制作、魚礁の効果の検証、じゃらん(リクルート)での予約体制整備、Facebook グループポータルサイトの開設	
貢献分野		【環境】	【環境】	【社会】	【経済】
採用指標		侵入竹林境界整備延長(m)	漁礁の設置数(箇所)	体験プログラムの参加者数(人)	観察会等収益事業プログラム運用売上(円)
SDGs貢献	指標	6.6.1、15.1.1			8.9.1
	ターゲット	6.6、15.1	14.2	4.7	8.9
	ゴール	G6、G15	G14	G4	G8
基準 2022 年 3 月		0m	5 基	0 人	0 円
評価 2024 年 2 月		総延長 120m	計 23 基(2022 年度 10 基、2023 年度 13 基)	計 33 人(2022 年度 15 人、2023 年度 18 人)	合計 43,500 円(地元旅館 32,000 円、水辺の会 11,500 円)修学旅行参加を除く

評価の視点２：選定指標による評価（詳細表）

	活動1	活動2	活動3	
名称	里山の保全活動	里海の保全活動	活動効果の検証と事業化	
活動課題	モウソウチク林の拡大による里山の荒廃	里海の水産資源の生息場の減少	竹の漁礁としての効果の検証 体験プログラムの開発	
活動内容	竹林整備体験、竹で地元のお米を炊いて試食（モニタープログラムの実施）,アウトドアクッキングの石窯整備、提供サービスメニューの開発	竹林整備で出た竹で漁礁の作成、作成した漁礁の設置、スノーケリングによる漁礁の観察会の開催	効果的な漁礁の開発・制作、魚礁の効果の検証、じゃらん（リクルート）での予約体制整備、Facebook グループポータルサイトの開設	
地域循環共生圏貢献	【環境への貢献】	【環境への貢献】	【社会への貢献】	【経済への貢献】
地域循環共生圏貢献内容	荒廃した里山の保全 里山資源利用の再認識	竹林整備で出た竹による海洋生物の生息場や産卵場の創出による海洋生態系の保全	里海の自然環境教育の普及・啓発 流域連携保全の構築	収益事業のプログラム運営による地元観光業への経済効果 グリーンツーリズムの活性化
採用指標	侵入竹林境界整備延長（m）	漁礁の設置数（箇所）	体験プログラムの参加者数（人）	観察会等収益事業プログラム運用売上（円）
貢献 SDGs 指標	6.6.1 水関連生態系範囲の経時変化 15.1.1 土地全体に対する森林の割合			8.9.1 全 GDP 及び GDP 成長率に占める割合としての観光業の直接 GDP
貢献 SDGs ターゲット	6.6 山地、森林、湿地、河川、帯水層、湖沼を含む水に関連する生態系の保護・回復を行う。 15.1 森林、湿地、山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全、回復及び持続可能な利用を確保する。	14.2 2020 年までに、海洋及び沿岸の生態系に関する重大な悪影響を回避するため、強靱性（レジリエンス）の強化などによる持続的な管理と保護を行い、健全で生産的な海洋を実現するため、海洋及び沿岸の生態系の回復のための取組を行う。	4.7 2030 年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、（略）持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。	8.9 2030 年までに、雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する。
貢献 SDGs ゴール	G6：すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する G15：陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する	G14 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する	G4 すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する	G8 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する
基準 2022 年 3 月	0m	5 基	0 人	0 円
評価 2024 年 2 月	総延長 120m	計 23 基（2022 年度 10 基、2023 年度 13 基）	計 33 人（2022 年度 15 人、2023 年度 18 人）	合計 43,500 円（地元旅館 32,000 円、水辺の会 11,500 円）修学旅行参加を除く

（イ） 長野県 NPO センター、芋井地区住民自治協議会による「いもいリビングらぼ」の活動（長野県長野市芋井地区集落）

①評価指標の選定と SDGs 指標物語

評価指標の選定とSDGs指標物語　活動１、２、３（2023年1月選定2024年2月修正）

	活動１	活動２		活動３		
名称	情報共有の場、学びの場の設営	実験の場の設営①再エネ活用		実験の場の設営②草刈りバスターズ		
活動内容	参加者の声掛け、お互いを知るワークショップ、持続可能な芋井地区に関する講座の開催	持続可能な地域づくりにつながるオフグリッド再エネ活用の実験的プロジェクトの推進		持続可能な地域づくりにつながる草刈り講座やネットワークシステムの実験的プロジェクトの推進		
地域循環共生圏貢献	【社会】	【環境】	【社会】	【環境】	【社会】	【経済】
採用指標	情報共有や学びの場の参加人数（人）、課題解決の地域活動実験的プロジェクト提案数（件）	再エネ実験設置数（ヶ所）、活用した再エネ量（kWh）	実験関係者数（人）、波及個所数（ヶ所）	実験プロジェクト推進による草刈り面積（平方m）	草刈りバスターズ受講者数（人）、イベント参加者数（人）	アクティビティ化による関連サービス提供売上（円）
貢献SDGs指標		7.2.1				8.9.1
貢献SDGsターゲット	4.4、11.3、17.2	7.2、13.3	4.4、11.3、17.2	15.1	4.4、11.3、17.2	8.9
貢献SDGsゴール	4、11，17	7、13	4、11，17	15	4、11，17	8

1

活動別評価指標（活動１）

活動名		情報共有の場、学びの場の設営		
活動課題		行政頼みの地域運営ではなく、自分たちの地域を自分たちで運営する仕組みへの転換。「私たちが住み続けたい地域とは？」「そのために自分ができることは？」など自分ごととして関わる仲間を増やす。		
活動内容		参加者の声掛け、お互いを知るワークショップ、持続可能な芋井地区に関する講座の開催		
活動成果予想		関係人口の増加と人的ネットワークの構築 参加者の資質の向上、課題と将来ビジョンの共有・我がこと化、実験プロジェクトの提案		
地域循環共生圏貢献		【環境への貢献】	【社会への貢献】	【経済への貢献】
			地域のつながりが強化、関係者のネットワークが拡大 参加者の資質の向上、課題と将来ビジョンの共有・我がこと化、地域活動の提案	
評価指標１	指標案		参加者数	
評価指標２	指標案		課題解決の地域活動実験的プロジェクト提案数	
評価指標３	指標案			
採用指標（案）			情報共有や学びの場の参加人数（人）、課題解決の地域活動実験的プロジェクト提案数（件）	

2

SDGs指標物語の作成結果：活動１情報共有の場、学びの場の設営
情報共有や学びの場の参加人数（人）、課題解決の地域活動実験的プロジェクト提案数（件）

EPO中部 環境省 中部環境パートナーシップオフィス

「活動１情報共有の場、学びの場の設営」の評価指標のSDGs指標物語

活動1	情報共有の場、学びの場の設営
貢献分野	社会
選定指標	情報共有や学びの場の参加人数（人）、課題解決の地域活動実験的プロジェクト提案数（件）
Local SDGs指標の概説	情報共有や学びの場の参加人数（人）、課題解決の地域活動実験的プロジェクト提案数（件）は「ゴール4 質の高い教育をみんなに、11住み続けられるまちづくりを、17パートナーシップで目標を達成しよう」の達成に寄与する地域活動を反映するLocal SDGs指標として選定した。 情報共有や学びの場の参加人数（人）、課題解決の地域活動実験的プロジェクト提案数（件）は地域の「住民参加増加と地域社会の課題解決案の増加」への貢献度を表す。
SDGs への関連性	情報共有や学びの場の参加人数（人）、課題解決の地域活動実験的プロジェクト提案数（件）が増加すると、「地域住民の課題解決スキルの向上」により、【ターゲット4.4（略）技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。】の達成に貢献する。また、「地域の課題解決能力の向上」により、【ターゲット11.3（略）包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。】の達成に貢献する。また、「地域内外の関係者のネットワーク形成拡大」により、【ターゲット17.2 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。】の達成に貢献する。
地域の取組との関連性	情報共有や学びの場の参加人数（人）、課題解決の地域活動実験的プロジェクト提案数（件）のために『情報共有の場、学びの場の設営』を行えば、『地域課題の情報共有の場、学びの場の増加』という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、『地域課題を学び、考える住民の増加』の影響により『住民参加による地域社会の課題解決案の増加』につながる。一方、「プロジェクト実現努力による負荷の増加」という持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、「人員確保の困難性」の影響により「地域社会への人的負荷」につながることで、「ゴール11 住み続けられるまちづくりを」に対する阻害要因となり得るため、対策が必要となる。

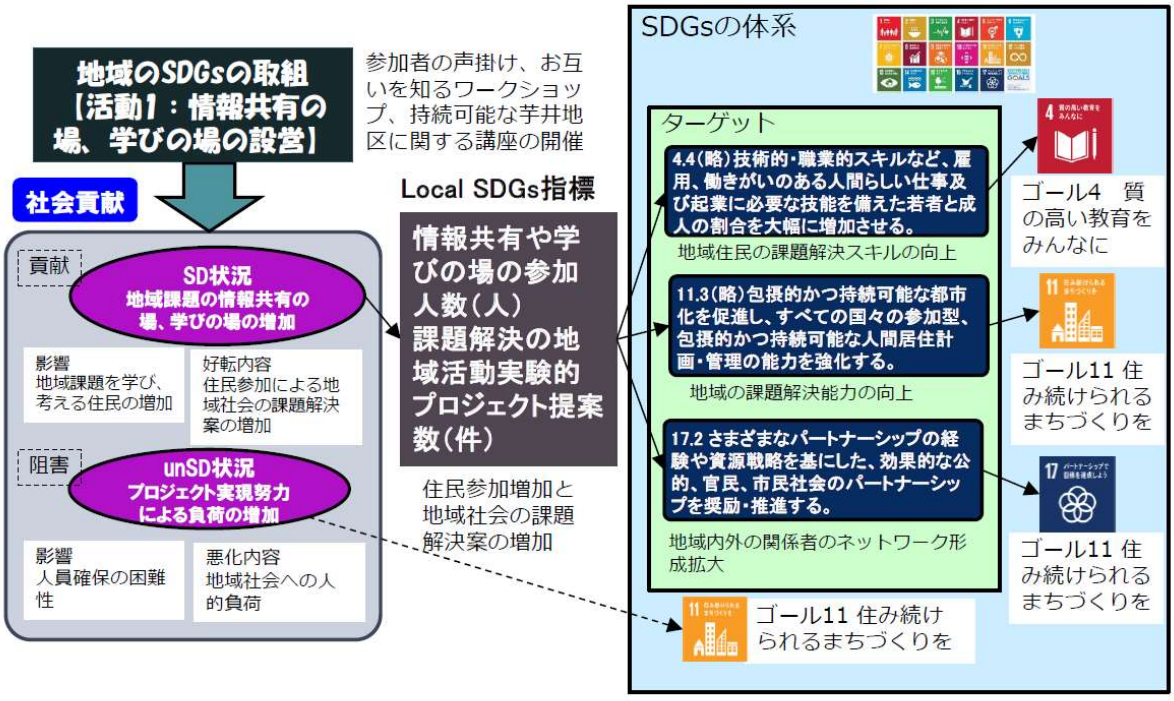
3

SDGs指標物語*チャート

「活動１情報共有の場、学びの場の設営」の選定指標

EPO中部 環境省 中部環境パートナーシップオフィス

*「ローカルSDGs取組のための基礎自治体指標データベースの構築」第24回日本環境共生学会学術大会論文集



協力：中部大学 国際ＧＩＳセンター　問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

4

活動別評価指標（活動２）

活動名		実験の場の設営①再エネ活用		
活動課題		家庭での化石燃料由来のエネルギーに頼る生活スタイル（自動車での移動、系統電力の利用など）が気候変動の原因ともなっている。芋井地区から太陽光やバイオマスなど再生可能エネルギーを活用したオフグリッド生活をすこしずつ取り入れる家庭を増やす		
活動内容		持続可能な地域づくりにつながるオフグリッド再エネ活用の実験的プロジェクトの推進		
活動成果予想		導入可能なオフグリッド再エネシステム講座、設置実験、効果及び導入可能性評価、活用実績		
地域循環共生圏貢献		【環境への貢献】 再エネの実験的導入による創エネ	【社会への貢献】 オフグリッド再エネ活用による防災力の強化、再エネ実験に伴う専門家や地区外の関係人口のネットワーク拡大	【経済への貢献】 プロジェクト推進に伴う外資（補助金）の導入、再エネによる域外エネルギー費流出防止
評価指標１	指標案	再エネ実験数、設置数	再エネ実験関係者数	導入外資（補助金）額
評価指標２	指標案	活用した創エネルギー量（kWh）	関係者への再エネ設置の波及数	創エネルギー費（代替による換算）
評価指標３	指標案	二酸化炭素削減量（CO2-kg）		
採用指標（案）		再エネ実験設置数（ヶ所）、活用した再エネ量（kWh）	実験関係者数（人）、波及個所数（ヶ所）	

5

SDGs指標物語の作成結果：活動２実験の場の設営①再エネ活用
再エネ実験設置数（ヶ所）、活用した再エネ量（kWh）

EPO中部 環境省 中部環境パートナーシップオフィス

「活動２実験の場の設営①再エネ活用」の評価指標のSDGs指標物語-1

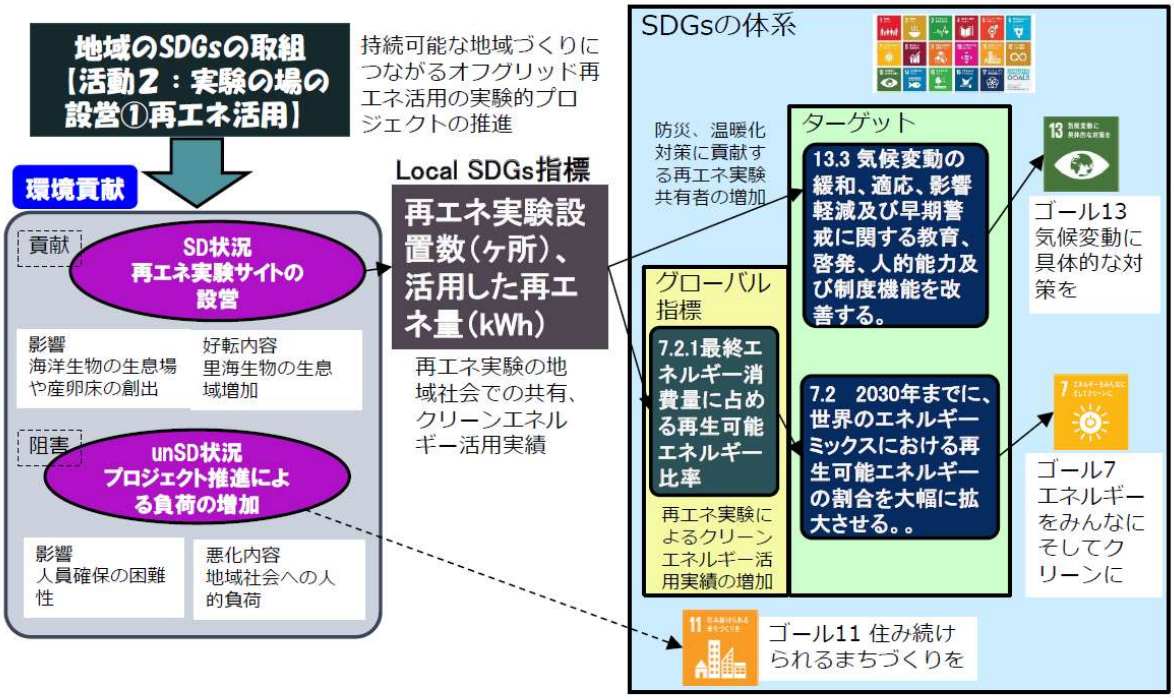
活動1	実験の場の設営①再エネ活用
貢献分野	環境
選定指標	再エネ実験設置数（ヶ所）、活用した再エネ量（kWh）
Local SDGs指標の概説	再エネ実験設置数（ヶ所）、活用した再エネ量（kWh）は「ゴール13気候変動に具体的な対策を、7エネルギーをみんなにそしてクリーンに、」の達成に寄与する地域活動を反映するLocal SDGs指標として選定した。再エネ実験設置数（ヶ所）、活用した再エネ量（kWh）は地域の「再エネ実験の地域社会での共有、クリーンエネルギー活用実績」への貢献度を表す。
SDGs への関連性	再エネ実験設置数（ヶ所）、活用した再エネ量（kWh）が増加すると、「防災、温暖化対策に貢献する再エネ実験共有者の増加」により、【ターゲット13.3気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。】の達成に貢献する。また、「再エネ実験によるクリーンエネルギー活用実績の増加」から、【指標7.2.1最終エネルギー消費量に占める再生可能エネルギー比率】に影響があり、【ターゲット7.2（略）再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。】の達成に貢献する。
地域の取組との関連性	再エネ実験設置数（ヶ所）、活用した再エネ量（kWh）のために『実験の場の設営①再エネ活用』を行えば、『再エネ実験サイトの設営』という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、『再エネ実験実績の増加』の影響により『地域での再エネ実績共有とエネルギー活用実績の増加』につながる。一方、「プロジェクト推進による負荷の増加」という持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、「人員確保の困難性」の影響により「地域社会への人的負荷」につながることで、「ゴール11 住み続けられるまちづくりを」に対する阻害要因となり得るため、対策が必要となる。

6

SDGs指標物語*チャート「活動２：実験の場の設営①再エネ活用」の選定指標-1

EPO中部 環境省 中部環境パートナーシップオフィス

＊「ローカルSDGs取組のための基礎自治体指標データベースの構築」第24回日本環境共生学会学術大会論文集



協力：中部大学 国際ＧＩＳセンター　問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

7

SDGs指標物語の作成結果：活動２実験の場の設営①再エネ活用
実験関係者数（人）、波及個所数（ヶ所）

EPO中部 環境省 中部環境パートナーシップオフィス

「活動２実験の場の設営①再エネ活用」の評価指標のSDGs指標物語-2

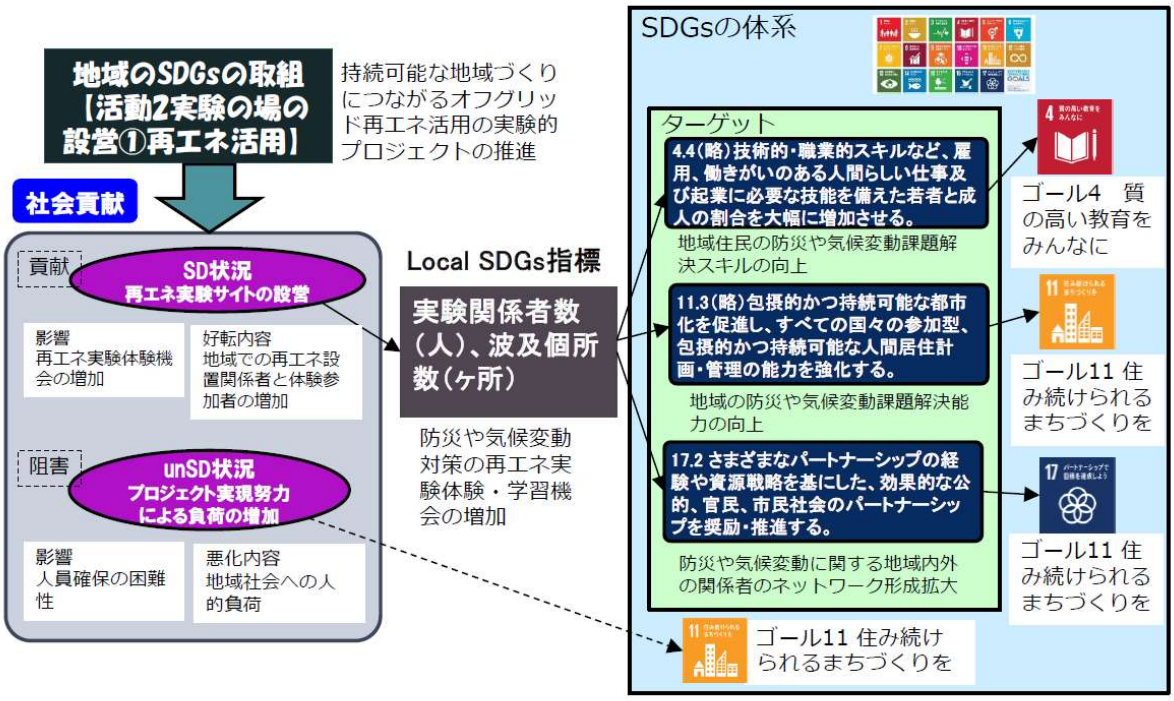
活動1	実験の場の設営①再エネ活用
貢献分野	社会
選定指標	実験関係者数（人）、波及個所数（ヶ所）
Local SDGs指標の概説	実験関係者数（人）、波及個所数（ヶ所）は「ゴール4質の高い教育をみんなに、11住み続けられるまちづくりを、17パートナーシップで目標を達成しよう」の達成に寄与する地域活動を反映するLocal SDGs指標として選定した。 実験関係者数（人）、波及個所数（ヶ所）は地域の「防災や気候変動対策の再エネ実験体験・学習機会の増加」への貢献度を表す。
SDGs への関連性	実験関係者数（人）、波及個所数（ヶ所）が増加すると、「地域住民の防災や気候変動課題解決スキルの向上」から、【指標】に影響があり、【ターゲット4.4（前略）技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。】の達成に貢献する。また、「地域の防災や気候変動課題解決能力の向上」から、【指標】に影響があり、【ターゲット11.3（前略）包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。】の達成に貢献する。また、「防災や気候変動に関する地域内外の関係者のネットワーク形成拡大」から、【指標】に影響があり、【ターゲット17.2 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。】の達成に貢献する。
地域の取組との関連性	実験関係者数（人）、波及個所数（ヶ所）のために『実験の場の設営①再エネ活用』を行えば、『再エネ実験サイトの設営』という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、『再エネ実験体験機会の増加』の影響により『地域での再エネ設置関係者と体験参加者の増加』につながる。一方、「プロジェクト実現努力による負荷の増加」という持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、「人員確保の困難性」の影響により「地域社会への人的負荷」につながることで、「ゴール11 住み続けられるまちづくりを」に対する阻害要因となり得るため、対策が必要となる。

8

SDGs指標物語*チャート 「活動２：実験の場の設営①再エネ活用」の選定指標-2

EPO中部 環境省 中部環境パートナーシップオフィス

*「ローカルSDGs取組のための基礎自治体指標データベースの構築」第24回日本環境共生学会学術大会論文集



協力：中部大学 国際ＧＩＳセンター 問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

9

活動別評価指標（活動3）

活動名		実験の場の設営②草刈りバスターズ		
活動課題		人口減少や高齢化が進み、公道や公園などの動力刈払機による草刈り作業の担い手を少なくなっており、生活や地区環境に支障をきたしつつある。地区外の関係人口を増やして、担い手不足を解決とすると同時に、地区外との交流増により地区に活気を取り戻す		
活動内容		持続可能な地域づくりにつながる草刈り講座やネットワークシステムの実験的プロジェクトの推進		
活動成果予想		草刈りネットワークシステムの構築と実験的運用、及び実験的草刈り実績		
地域循環共生圏貢献		【環境への貢献】	【社会への貢献】	【経済への貢献】
		草刈り実績による里山の持続性強化	草刈りネットワークシステム構築と運用による関係者の増加と域外ネットワークの拡大	プロジェクト推進に伴う外資（補助金）の導入 アクティビティ化による外来者へのサービス提供
評価指標１	指標案	実験プロジェクト推進による草刈り面積	草刈りバスターズ受講者数	導入外資（補助金）額
評価指標２	指標案		草刈イベント参加者数	アクティビティ化による関連サービス提供売上
評価指標３	指標案			
採用指標（案）		実験プロジェクト推進による草刈り面積（平方m）	草刈りバスターズ受講者数（人）、イベント参加者数（人）	アクティビティ化による関連サービス提供売上（円）

10

SDGs指標物語の作成結果：活動３実験の場の設営②草刈りバスターズ
実験プロジェクト推進による草刈り面積（平方m）

EPO中部 環境省 中部環境パートナーシップオフィス

「活動３実験の場の設営②草刈りバスターズ」の評価指標のSDGs指標物語-1

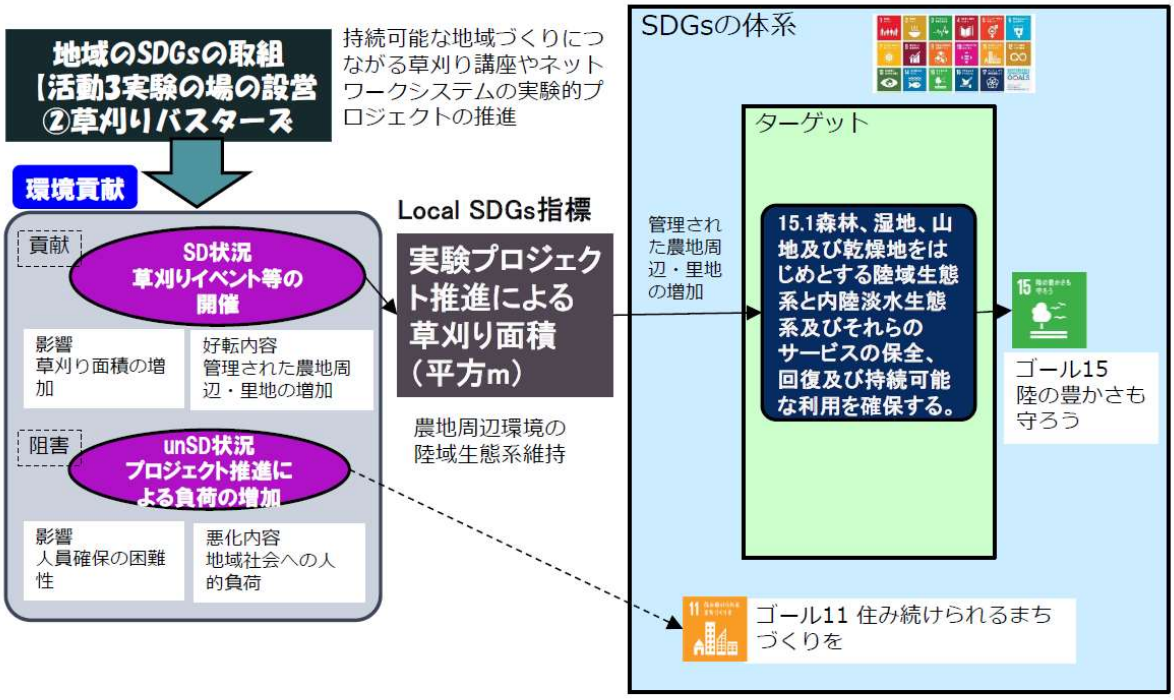
活動1	実験の場の設営②草刈りバスターズ
貢献分野	環境
選定指標	実験プロジェクト推進による草刈り面積（平方m）
Local SDGs指標の概説	実験プロジェクト推進による草刈り面積（平方m）は「ゴール15陸の豊かさも守ろう、、」の達成に寄与する地域活動を反映するLocal SDGs指標として選定した。 実験プロジェクト推進による草刈り面積（平方m）は地域の「農地周辺環境の陸域生態系維持」への貢献度を表す。
SDGs への関連性	実験プロジェクト推進による草刈り面積（平方m）が増加すると、「管理された農地周辺・里地の増加」により、【ターゲット15.1森林、湿地、山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全、回復及び持続可能な利用を確保する。】の達成に貢献する。
地域の取組との関連性	実験プロジェクト推進による草刈り面積（平方m）のために『実験の場の設営②草刈りバスターズ』を行えば、『草刈りイベント等の開催』という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、『草刈り面積の増加』の影響により『管理された農地周辺・里地の増加』につながる。一方、「プロジェクト推進による負荷の増加」という持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、「人員確保の困難性」の影響により「地域社会への人的負荷」につながることで、「ゴール11 住み続けられるまちづくりを」に対する阻害要因となり得るため、対策が必要となる。

11

SDGs指標物語*チャート

*「ローカルSDGs取組のための基礎自治体指標データベースの構築」第24回日本環境共生学会学術大会論文集

EPO中部 環境省 中部環境パートナーシップオフィス



協力：中部大学 国際ＧＩＳセンター　問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

12

SDGs指標物語の作成結果：活動３実験の場の設営②草刈りバスターズ
草刈りバスターズ受講者数（人）、イベント参加者数（人）

EPO中部 環境省 中部環境パートナーシップオフィス

「活動３実験の場の設営②草刈りバスターズ」の評価指標のSDGs指標物語-2

活動1	実験の場の設営②草刈りバスターズ
貢献分野	社会
選定指標	草刈りバスターズ受講者数（人）、イベント参加者数（人）
Local SDGs指標の概説	草刈りバスターズ受講者数（人）、イベント参加者数（人）は「ゴール4質の高い教育をみんなに、11住み続けられるまちづくりを、17パートナーシップで目標を達成しよう」の達成に寄与する地域活動を反映するLocal SDGs指標として選定した。 草刈りバスターズ受講者数（人）、イベント参加者数（人）は地域の「受講者の草刈りスキル向上と里地保全体験学習者の増加」への貢献度を表す。
SDGs への関連性	草刈りバスターズ受講者数（人）、イベント参加者数（人）が増加すると、「受講者の草刈りスキル向上と里地保全体験学習者の増加」により、【ターゲット4.4（前略）技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。】の達成に貢献する。また、「地域の里地保全能力の向上」により、【ターゲット11.3（前略）包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。】の達成に貢献する。また、「地域内外の里地保全やイベント開催関係者のネットワーク形成拡大」により、【ターゲット17.2 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。】の達成に貢献する。
地域の取組との関連性	草刈りバスターズ受講者数（人）、イベント参加者数（人）のために『実験の場の設営②草刈りバスターズ』を行えば、『草刈りイベント等の開催』という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、『草刈り講習機会の増加、体験学習機会の増加』の影響により『受講者の草刈りスキル向上と里地保全体験学習者の増加』につながる。一方、「プロジェクト実現努力による負荷の増加」という持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、「人員確保の困難性」の影響により「地域社会への人的負荷」につながることで、「ゴール11 住み続けられるまちづくりを」に対する阻害要因となり得るため、対策が必要となる。

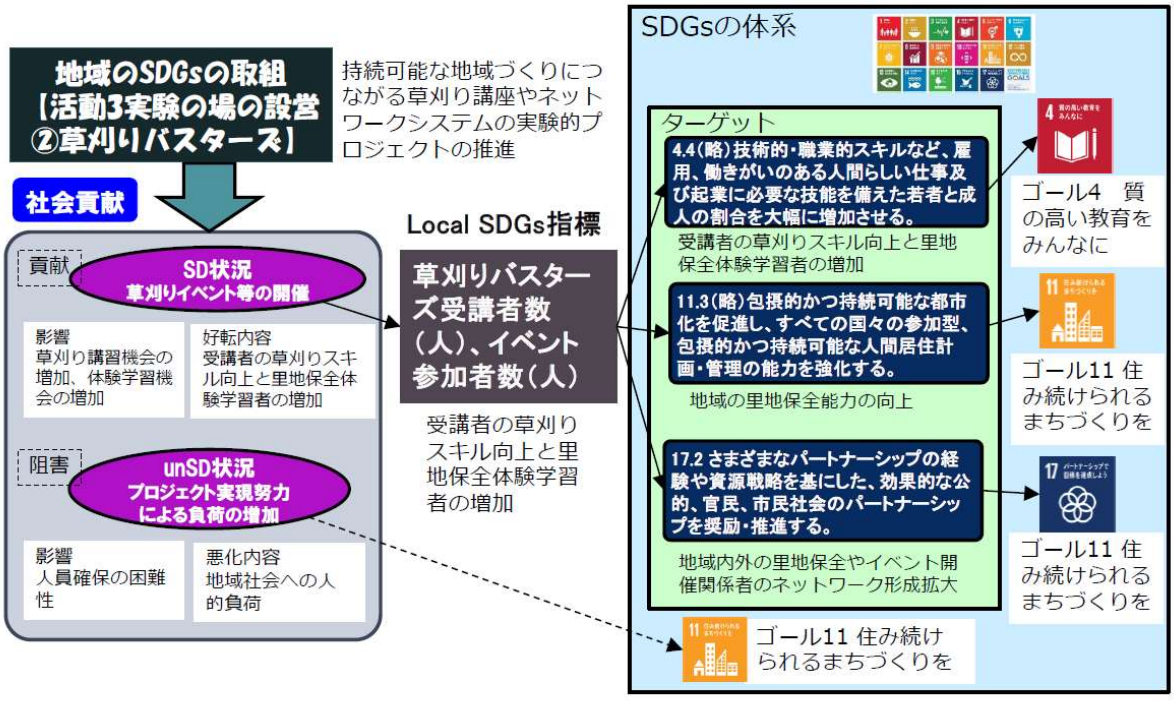
13

SDGs指標物語*チャート

「活動２：実験の場の設営①再エネ活用」の選定指標-2

EPO中部 環境省 中部環境パートナーシップオフィス

*「ローカルSDGs取組のための基礎自治体指標データベースの構築」第24回日本環境共生学会学術大会論文集



協力：中部大学 国際ＧＩＳセンター　問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

14

SDGs指標物語の作成結果：活動３実験の場の設営②草刈りバスターズ
実験プロジェクト推進による草刈り面積（平方m）

EPO中部 環境省 中部環境パートナーシップオフィス

「活動３実験の場の設営②草刈りバスターズ」の評価指標のSDGs指標物語-3

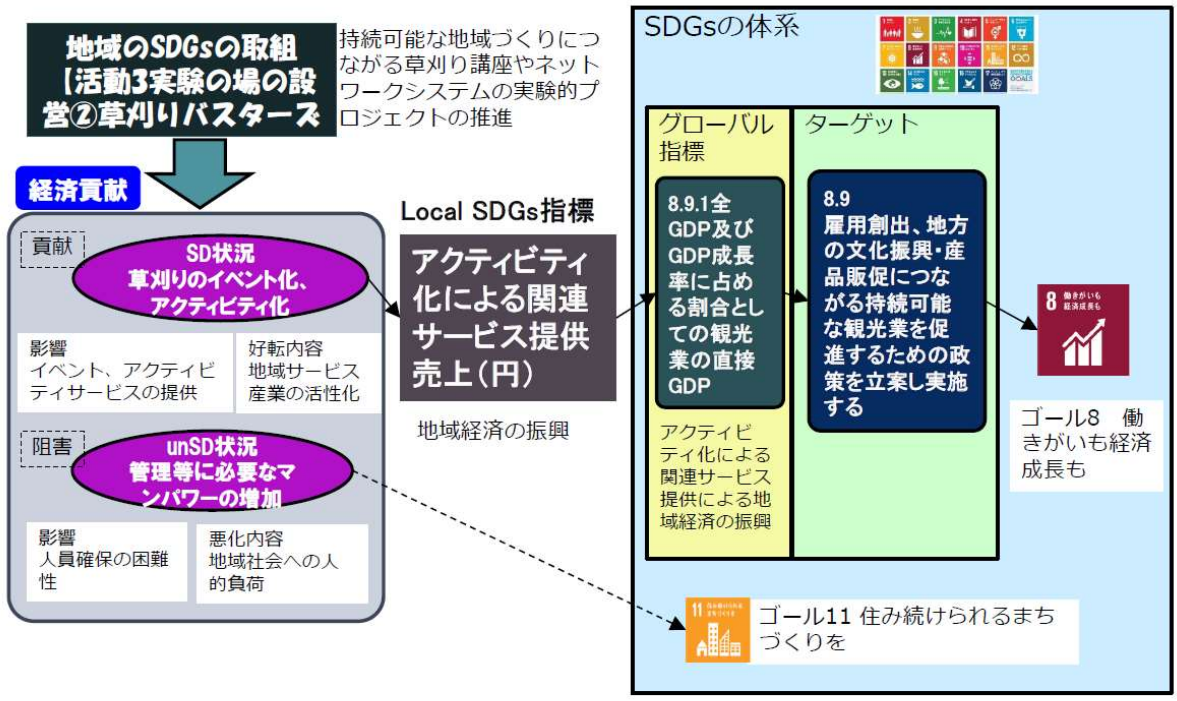
活動1	実験の場の設営②草刈りバスターズ
貢献分野	経済
選定指標	アクティビティ化による関連サービス提供売上（円）
Local SDGs指標の概説	アクティビティ化による関連サービス提供売上（円）は「ゴール8働きがいも経済成長も、」の達成に寄与する地域活動を反映するLocal SDGs指標として選定した。 アクティビティ化による関連サービス提供売上（円）は地域の「地域経済の振興」への貢献度を表す。
SDGs への関連性	アクティビティ化による関連サービス提供売上（円）が増加すると、「アクティビティ化による関連サービス提供による地域経済の振興」から、【指標8.9.1全GDP及びGDP成長率に占める割合としての観光業の直接GDP】に影響があり、【ターゲット8.9雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する】の達成に貢献する。
地域の取組との関連性	アクティビティ化による関連サービス提供売上（円）のために『実験の場の設営②草刈りバスターズ』を行えば、『草刈りのイベント化、アクティビティ化』という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、『イベント、アクティビティサービスの提供』の影響により『地域サービス産業の活性化』につながる。一方、「管理等に必要なマンパワーの増加」という持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、「人員確保の困難性」の影響により「地域社会への人的負荷」につながることで、「ゴール11 住み続けられるまちづくりを」に対する阻害要因となり得るため、対策が必要となる。

15

SDGs指標物語*チャート

*「ローカルSDGs取組のための基礎自治体指標データベースの構築」第24回日本環境共生学会学術大会論文集

EPO中部 環境省 中部環境パートナーシップオフィス



協力：中部大学 国際ＧＩＳセンター　問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

16

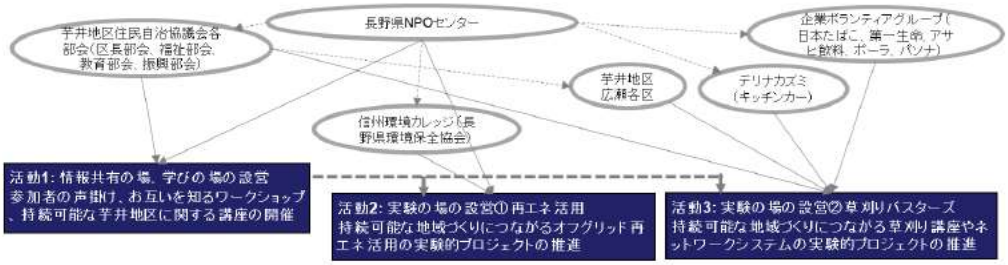
②活動評価

いもいリビングラボの活動　活動評価案　2022 年 10 月～2024 年 2 月

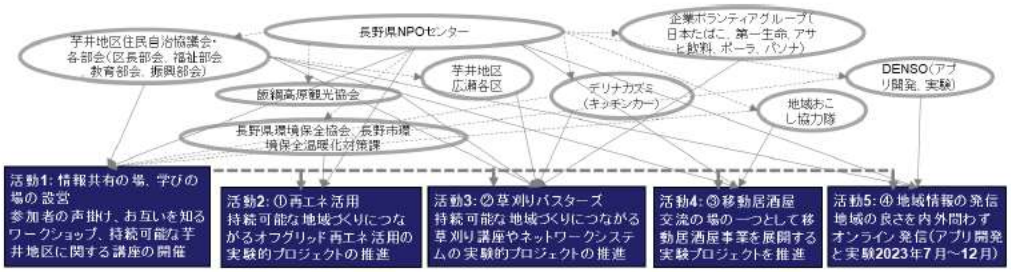
案作成：環境省 EPO 中部 2024 年 2 月 5 日

評価の視点 1：関係主体の変遷による協働の推進

【2022 年 10 月時点の状況】「いもいリビングラボ」が立ち上がり二つの実験プロジェクトが始動した。



【2024 年 2 月時点の状況】当初の二つの実験プロジェクトの関係団体が拡大明確化し取組が推進されるとともに、新たに二つの実験プロジェクトが立ち上り始動した。



評価の視点 2：選定指標（活動 1、2、3（2023 年 1 月選定））による評価

活動 2①再エネ活用は 2023 年度は中断したが、リビングラボでの実験プロジェクトは 2 件増加した。また活動 3②草刈りバスターズは活動が拡大し、受講料は日当などの経済効果も認められる。

	活動1	活動2		活動3		
名称	情報共有の場、学びの場の設営	実験の場の設営①再エネ活用		実験の場の設営②草刈りバスターズ		
活動内容	参加者の声掛け、お互いを知るワークショップ、持続可能な芋井地区に関する講座の開催	持続可能な地域づくりにつながるオフグリッド再エネ活用の実験的プロジェクトの推進		持続可能な地域づくりにつながる草刈り講座やネットワークシステムの実験的プロジェクトの推進		
貢献分野	【社会】	【環境】	【社会】	【環境】	【社会】	【経済】
採用指標	情報共有や学びの場の参加人数（人）、課題解決の地域活動実験的プロジェクト提案数（件）	再エネ実験設置数（ヶ所）、活用した再エネ量（kWh）	実験関係者数（人）、波及個所数（ヶ所）	実験プロジェクト推進による草刈り面積（平方m）	草刈りバスターズ受講者数（人）、イベント参加者数（人）	アクティビティ化による関連サービス提供売上（円）
貢献指標		7.2.1				8.9.1
貢献ターゲット	4.4、11.3、17.2	7.2、13.3	4.4、11.3、17.2	15.1	4.4、11.3、17.2	8.9
貢献ゴール	4、11、17	7、13	4、11、17	15	4、11、17	8
2022 年 10 月まで	参加者数 60 人 実験プロジェクト 2 件	3 ヶ所	66 人	約 200 ㎡	受講者数 17 人 イベント参加者数 22 人	受講料 22,500 円 日当 51,000 円
上記から 2024 年 2 月まで	参加者数 40 人 実験プロジェクト 4 件	中断	中断	約 600 ㎡	受講者数 9 人 イベント参加者数 28 人	受講料 13,500 円 日当 84,000 円 補助金 1,618,000 円

いもいリビングラボの活動　評価一覧表　240205

	活動1	活動2		活動3		
名称	情報共有の場、学びの場の設営	実験の場の設営①再エネ活用		実験の場の設営②草刈りバスターズ		
活動課題	行政頼みの地域運営ではなく、自分たちの地域を自分たちで運営する仕組みへの転換。「私たちが住み続けたい地域とは？」「そのために自分ができることは？」など自分ごととして関わる仲間を増やす。	家庭での化石燃料由来のエネルギーに頼る生活スタイル（自動車での移動、系統電力の利用など）が気候変動の原因ともなっている。芋井地区から太陽光やバイオマスなど再生可能エネルギーを活用したオフグリッド生活をすこしずつ取り入れる家庭を増やす		人口減少や高齢化が進み、公道や公園などの動力刈払機による草刈り作業の担い手を少なくなっており、生活や地区環境に支障をきたしつつある。地区外の関係人口を増やして、担い手不足を解決とすると同時に、地区外との交流増により地区に活気を取り戻す		
活動内容	参加者の声掛け、お互いを知るワークショップ、持続可能な芋井地区に関する講座の開催	持続可能な地域づくりにつながるオフグリッド再エネ活用の実験的プロジェクトの推進		持続可能な地域づくりにつながる草刈り講座やネットワークシステムの実験的プロジェクトの推進		
地域循環共生圏貢献	【社会への貢献】	【環境への貢献】	【社会への貢献】	【環境への貢献】	【社会への貢献】	【経済への貢献】
地域循環共生圏貢献内容	地域のつながりが強化、関係者のネットワークが拡大 参加者の資質の向上、課題と将来ビジョンの共有・我がこと化、地域活動の提案	再エネの実験的導入による創エネ	オフグリッド再エネ活用による防災力の強化、再エネ実験に伴う専門家や地区外の関係人口のネットワーク拡大	草刈り実績による里山の持続性強化	草刈りネットワークシステム構築と運用による関係者の増加と域外ネットワークの拡大	プロジェクト推進に伴う外資（補助金）の導入 アクティビティ化による外来者へのサービス提供
採用指標	情報共有や学びの場の参加人数（人）、課題解決の地域活動実験的プロジェクト提案数（件）	再エネ実験設置数（ヶ所）、活用した再エネ量（kWh）	実験関係者数（人）、波及個所数（ヶ所）	実験プロジェクト推進による草刈り面積（平方m）	草刈りバスターズ受講者数（人）、イベント参加者数（人）	アクティビティ化による関連サービス提供売上（円）
貢献SDGs指標		7.2.1最終エネルギー消費量に占める再生可能エネルギー比率				8.9.1全GDP及びGDP成長率に占める割合としての観光業の直接GDP
貢献SDGsターゲット	4.4（略）技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる 11.3（略）包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する 17.2 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する	7.2　2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる 13.3 気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。	4.4（略）技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる 11.3（略）包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する 17.2 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する	15.1森林、湿地、山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全、回復及び持続可能な利用を確保する。	4.4（略）技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる 11.3（略）包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する 17.2 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する	8.9 雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する
貢献SDGsゴール	4 すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する 11 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する 17 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する	7 すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する 13 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる	4 すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する 11 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する 17 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する	15 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する	4 すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する 11 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する 17 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する	8 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する
2022年10月まで	参加者数60人 実験プロジェクト2件	3ヶ所	66人	約200㎡	受講者数17人 イベント参加者数22人	受講料22,500円 日当51,000円
上記から2024年2月まで	参加者数40人 実験プロジェクト4件	中断	中断	約600㎡	受講者数9人 イベント参加者数28人	受講料13,500円 日当84,000円 補助金1,618,000円

8 関係主体との連携及び協働に関する業務

(1) 中部地方環境事務所との情報共有及び意見交換

ア 定期打合せと日々の業務報告の提出

（ア） 定期打合せ

- 中部地方環境事務所の担当官との定期的な打合せを月 1 回頻度で実施し、業務の進捗状況、方向性などについて協議を行った。

	実施日	主な打合せ協議事項
第1回	4 月 11 日	1.「令和5年度業務実施計画」案について 2. イベント・会合関係の実施内容と、関係者への連絡・調整について 3. ESD/EPO 運営委員会について 4. PF 事業2団体とのヒアリング・打合せについて
第2回	4 月 17 日	1.「令和5年度業務実施計画」案について 2. イベント・会合関係の実施内容と、関係者への連絡・調整について 3. ESD/EPO 運営委員会について 4. PF 事業に関わる予定等について
第3回	5 月 11 日	1. ESD/EPO 運営委員会について 2. イベント・会合関係の実施内容と、関係者への連絡・調整について 3. PF 事業に関わる予定等について
第4回	6 月 6 日	1. ESD/EPO 運営委員会について 2. イベント・会合関係の実施内容と、関係者への連絡・調整について 3. PF 事業に関わる予定等について
第5回	7 月 11 日	1. イベント・会合関係について 2. PF 事業に関わる予定等について 3. 第1四半期報告書について
第6回	8 月 25 日	1. イベント・会合関係について 2. PF 事業に関わる予定等について
第7回	9 月 25 日	1. イベント・会合関係について 2. PF 事業関連について
第8回	10 月 11 日	1. イベント・会合関係について 2. PF 事業関連について 3. 第2四半期報告書について
第9回	11 月 21 日	1. イベント・会合関係について 2. PF 事業関連について 3. 第6期概要報告書について
第 10 回	12 月 12 日	1. 業務全体の実施状況確認 2. イベント・会合関係について 3. PF 事業関連について 4. 第2回運営委員会 5. 第6期概要報告書の原稿確認
第 11 回	1 月 18 日	1. 業務全体の実施状況確認　⇒第3四半期報告書で確認 2. イベント・会合関係について 3. PF 事業関連について 4. 第2回運営委員会 5. 第3四半期報告書の原稿確認
第 12 回	2 月 20 日	1. 業務全体の実施状況確認 2. イベント・会合関係について 3. PF 事業関連について
第 13 回	3 月 14 日	・年間報告書(及び概要版)について

（イ） 日々の業務報告提出

- 日々の業務についての「月次報告書」を作成し、業務内容等を記入したものを毎月（月初めに)、中部地方環境事務所へ提出した。

イ 中部地方環境事務所が開催する外部評価委員会への対応等

- 自己評価シートを作成し、中部地方環境事務所へ提出した。

ウ 環境白書を読む会への企画協力

①イベント名

- 令和５年版 環境白書を読む会

②日時

- 2023 年７月１日（土）10：00～11：00

③開催方法・会場

- 開催方法：ハイブリッド
  - オンライン：Webex、YouTube ライブ配信
  - 会場：東海学園大学名古屋キャンパス

④主催

- 主催：環境省中部地方環境事務所、中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）

⑤参加者

- オンライン 121 件（接続数／登壇者・事務局含む）
  - webex55 件（登壇者・事務局・関係者含む）
  - YouTube 視聴 66 件（ライブ配信のユニーク視聴者数）
- そのほか東海学園大学の学生が会場参加（人数把握なし）

⑥プログラム

第１部：令和５年版環境白書を読む会

〇あいさつ

〇令和５年版の環境白書執筆に携わった環境省の担当者による白書解説

〇質疑応答

第２部：中部地方環境事務所と東海学園大学学生の意見交換

〇グループごとの発表

〇中部地方環境事務所の回答

〇閉会

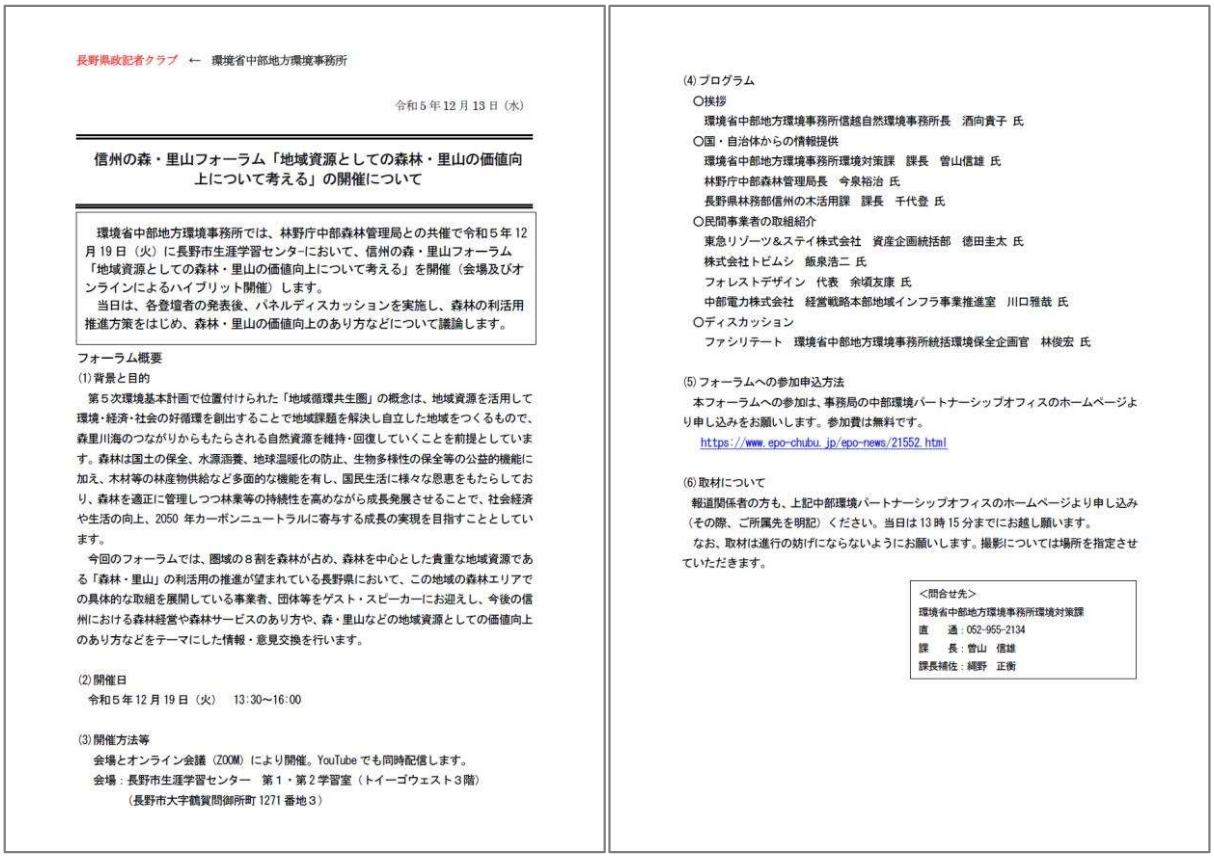
エ 全国ユース環境活動発表大会への参画

- 全国ユース環境活動発表大会実行委員会（環境省／独立行政法人環境再生保全機構／国連大学サステイナビリティ高等研究所）が主催する「全国ユース環境活動発表大会」中部大会の審査委員として、EPO 中部から ESD/EPO 運営委員である杉浦真理子氏（株式会社アクト 代表取締役）を推薦した。
- 12 月 10 日に開催された中部大会には、EPO 中部スタッフがオブザーバー参加した。

オ 記者発表等のメディア対応

- 12 月 19 日開催・信州の森・里山フォーラムの開催にあたり、中部地方環境事務所から長野県政記者クラブへのリリース投げ込みを行っていただいた。

【リリース資料】



長野県政記者クラブ ← 環境省中部地方環境事務所

令和５年 12 月 13 日（水）

信州の森・里山フォーラム「地域資源としての森林・里山の価値向上について考える」の開催について

環境省中部地方環境事務所では、林野庁中部森林管理局との共催で令和５年 12 月 19 日（火）に長野市生涯学習センターにおいて、信州の森・里山フォーラム「地域資源としての森林・里山の価値向上について考える」を開催（会場及びオンラインによるハイブリット開催）します。
当日は、各登壇者の発表後、パネルディスカッションを実施し、森林の利活用推進方策をはじめ、森林・里山の価値向上のあり方などについて議論します。

フォーラム概要

(1)背景と目的

第５次環境基本計画で位置付けられた「地域循環共生圏」の概念は、地域資源を活用して環境・経済・社会の好循環を創出することで地域課題を解決し自立した地域をつくるもので、森里川海のつながりからもたらされる自然資源を維持・回復していくことを前提としています。森林は国土の保全、水源涵養、地球温暖化の防止、生物多様性の保全等の公益的機能に加え、木材等の林産物供給など多面的な機能を有し、国民生活に様々な恩恵をもたらしており、森林を適正に管理しつつ林業等の持続性を高めながら成長発展させることで、社会経済や生活の向上、2050 年カーボンニュートラルに寄与する成長の実現を目指すこととしています。

今回のフォーラムでは、圏域の８割を森林が占め、森林を中心とした貴重な地域資源である「森林・里山」の利活用の推進が望まれている長野県において、この地域の森林エリアでの具体的な取組を展開している事業者、団体等をゲスト・スピーカーにお迎えし、今後の信州における森林経営や森林サービスのあり方や、森・里山などの地域資源としての価値向上のあり方などをテーマにした情報・意見交換を行います。

(2)開催日

令和５年 12 月 19 日（火） 13:30~16:00

(3)開催方法等

会場とオンライン会議（ZOOM）により開催。YouTube でも同時配信します。
会場：長野市生涯学習センター 第１・第２学習室（トイーゴウェスト３階）
（長野市大字鶴賀問御所町 1271 番地３）

(4)プログラム

○挨拶
環境省中部地方環境事務所信越自然環境事務所長 酒向貴子 氏
○国・自治体からの情報提供
環境省中部地方環境事務所環境対策課 課長 曽山信雄 氏
林野庁中部森林管理局長 今泉裕治 氏
長野県林務部信州の木活用課 課長 千代登 氏
○民間事業者の取組紹介
東急リゾーツ&ステイ株式会社 資産企画統括部 徳田圭太 氏
株式会社トビムシ 飯泉浩二 氏
フォレストデザイン 代表 余頃友康 氏
中部電力株式会社 経営戦略本部地域インフラ事業推進室 川口雅哉 氏
○ディスカッション
ファシリテート 環境省中部地方環境事務所統括環境保全企画官 林俊宏 氏

(5)フォーラムへの参加申込方法

本フォーラムへの参加は、事務局の中部環境パートナーシップオフィスのホームページより申し込みをお願いします。参加費は無料です。
https://www.epo-chubu.jp/epo-news/21552.html

(6)取材について

報道関係者の方も、上記中部環境パートナーシップオフィスのホームページより申し込み（その際、ご所属先を明記）ください。当日は 13 時 15 分までにお越し願います。
なお、取材は進行の妨げにならないようにお願いします。撮影については場所を指定させていただきます。

<問合せ先>
環境省中部地方環境事務所環境対策課
直 通：052-955-2134
課 長：曽山 信雄
課長補佐：縄野 正衛

(2) 全国ネットワークの活用及び連携の確保・強化

- 全国の地方 EPO・GEOC・ESD 活動支援センター等のネットワーク活用と連携の確保・強化を図るため、GEOC、全国 ESD センターが実施する会議等に全て参加した。具体的には、次表の会議等へ出席した。

※ 下記のほか、地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業に関連する会合、及び ESD 業務の関連会合についてはそれぞれ該当する各章・各項目に記載。

(ア) 全国事業に関わる業務

会合	開催日	方法/場所	実施内容等
PSタスクフォース	8 月 4 日	GEOC	• 協働取組がもたらす効果 • 協働取組が求められる地域の現状 • 協働取組を進める上での課題
全国 EPO 連絡会議	第1回 5 月 30 日	ハイブリッド 東京	【議題 1】EPO プロジェクト業務ごとの方向性 【議題 2】R6年度以降に向けた共生圏 PF 後継事業の方向性 【議題 3】今年度の EPO ネット会合の方向性 【議題 4】今年度の外部連携の方向性 【情報共有】今年度の本省計画 分科会(受託者会議)
	第2回 10 月 18 日 -19 日	北海道 網走市	【議題 1】EPO ネットとしてこれまで果たしてきた機能について 【議題 2】社会的ニーズに対して EPO がこれから果たすべき機能について 【議題 3】共生圏 PF 後継事業の設計について EPO 受託者会議
	第3回 1 月 23 日- 24 日	GEOC	【議題 1】今年度のまとめ、来年度への展望 【議題 2】令和 6 年度事業の予定 【議題 3】今後の地球環境基金との連携 EPO 受託者会議

【その他会合／催事等】

ERCA 連絡会議	7 月 21 日	ハイブリッド 神奈川県 川崎市	(1)2023 年度全国ユース環境活動発表大会について (2)2024 年度地球環境基金助成金の募集、説明会実施について (3)2023 年度ステークホルダーミーティングの実施について (4)地球環境基金 30 周年事業について (5)その他
地域脱炭素ネットワーキングイベント	8 月 31 日	東京	※マッチングでのファシリテーターとして参加 • イベントのグランドルール説明 • 地方公共団体プレゼンテーション • 地方公共団体と企業のマッチング • 名刺交換等交流会・企業によるピッチ/ブース出展

(イ) 地方 EPO ネットワークとの情報交換会

会合	開催日	方法/場所	実施内容等
情報交換会	12 月 22 日	オンライン	話題提供:石井雅章(神田外語大学 グローバル・リベラルアーツ学部教授) • 地域でサーキュラーエコノミーを実現するとは • サーキュラーエコノミー実現に向けた地域の課題 • 地域課題の解決に向けて EPO の果たすべき機能 話題提供: 上垣喜寛(自伐型林業推進協会 事務局長) • 自然共生サイト登録地(橋本山林)の現状 • 地域課題の同時解決に向けた自然共生サイトの活用可能性 • 自然共生サイトの活用に向けた地域での課題

9 外部資金を活用した事業

ア 地球環境基金

- 年間予算：300,000 円

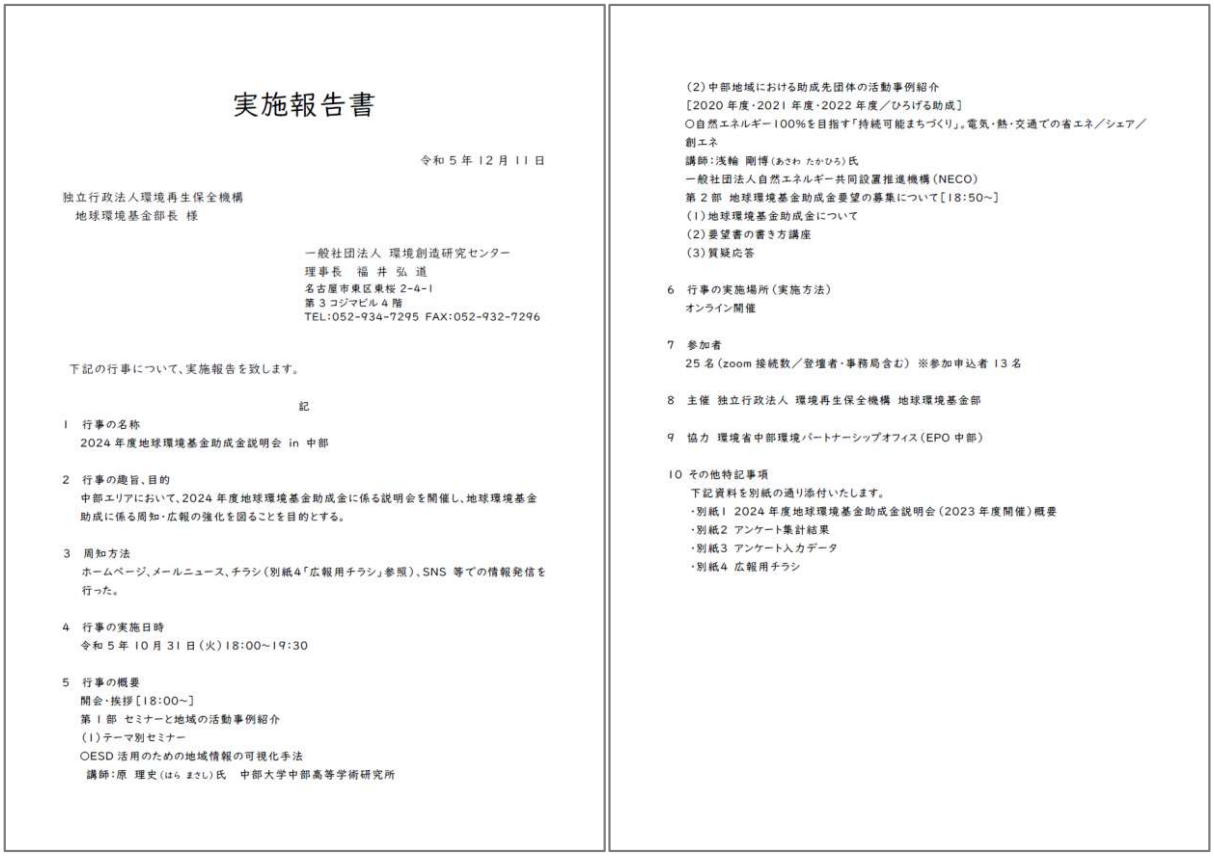
①地球環境基金 EPO 連絡会への出席

- 第 1 回全国 EPO 連絡会（５月 30 日開催）において、環境再生保全機構及び全国の地方 EPO を交えた今年度の業務についての協議・確認を行う会合が併催され、EPO 中部も出席した。
- ７月 21 日に開催された環境再生保全機構・EPO 連絡会議に出席し、今年度の連携業務の内容について協議・確認を行った。

②地球環境基金の次年度募集に関わる説明会等の開催

- 来期（2024 年度）募集分の地球環境基金の中部説明会を、主催：環境再生保全機構、協力：EPO 中部により 10 月 31 日に開催した。
- 説明会の終了後、実施報告書を作成し、環境再生保全機構へ提出した。

【提出した地球環境基金説明会の実施報告書】



実施報告書

令和５年 12 月 11 日

独立行政法人環境再生保全機構
地球環境基金部長 様

一般社団法人 環境創造研究センター
理事長 福 井 弘 道
名古屋市東区東桜 2-4-1
第３コジマビル４階
TEL:052-934-7295 FAX:052-932-7296

下記の行事について、実施報告を致します。

記

1 行事の名称
2024 年度地球環境基金助成金説明会 in 中部

2 行事の趣旨、目的
中部エリアにおいて、2024 年度地球環境基金助成金に係る説明会を開催し、地球環境基金助成に係る周知・広報の強化を図ることを目的とする。

3 周知方法
ホームページ、メールニュース、チラシ（別紙4「広報用チラシ」参照）、SNS 等での情報発信を行った。

4 行事の実施日時
令和５年 10 月 31 日（火）18:00~19:30

5 行事の概要
開会・挨拶［18:00~］
第１部 セミナーと地域の活動事例紹介
（1）テーマ別セミナー
○ESD 活用のための地域情報の可視化手法
講師：原 理史（はら まさし）氏 中部大学中部高等学術研究所

（2）中部地域における助成先団体の活動事例紹介
［2020 年度・2021 年度・2022 年度／ひろげる助成］
○自然エネルギー 100%を目指す「持続可能まちづくり」。電気・熱・交通での省エネ／シェア／創エネ
講師：浅輪 剛博（あさわ たかひろ）氏
一般社団法人自然エネルギー共同設置推進機構（NECO）
第２部 地球環境基金助成金要望の募集について［18:50~］
（1）地球環境基金助成金について
（2）要望書の書き方講座
（3）質疑応答

6 行事の実施場所（実施方法）
オンライン開催

7 参加者
25 名（zoom 接続数／登壇者・事務局含む） ※参加申込者 13 名

8 主催 独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金部

9 協力 環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）

10 その他特記事項
下記資料を別紙の通り添付いたします。
・別紙１ 2024 年度地球環境基金助成金説明会（2023 年度開催）概要
・別紙2 アンケート集計結果
・別紙3 アンケート入力データ
・別紙4 広報用チラシ

別紙１

2024 年度地球環境基金助成金説明会（2023 年度開催）

概　要

行 事 名　地球環境基金助成金説明会 in 中部
日　　時　2023 年 10 月 31 日（火）18:00～19:30
実施方法　オンライン開催
参 加 者　25 名（zoom 接続数／登壇者・事務局含む）
内　　容

挨　拶　沼尻 菜央 氏（独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部）

第 1部　セミナーと地域の活動事例紹介

（1）テーマ別セミナー［テーマ：持続可能なまちづくり］

○ESD 活用のための地域情報の可視化手法

講師：原 理史（はら まさし）氏　中部大学中部高等学術研究所

―ESD コンテンツ（教材）では地域の環境情報を「可視化」することが重要であるが、「可視化」の定義・手法・分析事例について、EPO 中部で作成した「活動見える化プログラム」及び「SDGs 指標物語」を手法のひとつとして紹介した。

（2）中部地域における助成先団体の活動事例紹介

［2020 年度・2021 年度・2022 年度／ひろげる助成］

○自然エネルギー100%を目指す「持続可能なまちづくり」。電気・熱・交通での省エネ／シェア／創エネ

講師：浅輪 剛博（あさわ たかひろ）氏　一般社団法人自然エネルギー共同設置推進機構（NECO）

―3 年間助成を受けた成果を活動の 3 本柱（①熱の省エネ ②交通の省エネ ③まち全体に関わる脱炭素まちづくり）それぞれについて紹介した。助成を受けたことによるメリットとして、専門家の助言が得られることを挙げ、アドバイスを活かし、行政で出来ないことを代わりに実施し、地域のあらゆる主体（市民・事業者など）との協働が実現し大きな成果につながったことに触れた。

第 2部　2024年度地球環境基金助成金の説明

（1）地球環境基金助成金について

説明：沼尻 菜央 氏（独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部）

―今年で 30 周年を迎える地球環境基金助成金について、2024 年度の助成概要（仕組み、特徴、メニュー、応募要件、対象費用、留意事項、2023 年度からの変更点、応募方法）を中心に、中部ブロック（岐阜・福井）の助成団体の事例紹介を交えて説明した。

（2）要望書の書き方講座

説明：西岡 玲子 氏（独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部）

―要望書の書き方について、審査の際に重要となるロジックモデルの組み立て方やその構成要素（上位目標、アウトカム、アウトプット）の設定ポイント、また、ロジックモデル作成後の確認・見直し方法について重点的に説明した。

（3）質疑応答―特になし（沼尻氏から個別相談会の日程・申込方法について再度ご案内）

＊参加申込者には事前に web ページに掲載されている説明資料・説明動画を閲覧・視聴のうえ参加いただくよう依頼した。

1

別紙１

【説明会の様子】

◆テーマ別セミナー
「ESD 活用のための地域情報の可視化手法」

◆中部地域の助成先団体の活動事例紹介
「自然エネルギー100%を目指す「持続可能なまちづくり」。電気・熱・交通での省エネ／シェア／創エネ」

◆地球環境基金助成金について

◆要望書の書き方講座

以 上

2

【地球環境基金説明会の開催案内チラシ】

イ 愛知県コーディネート業務

- 年間予算：902,000 円　（※当初予算／精算変更あり）
- 環境学習に関する愛知県内の学校・企業等からの相談、講師等の照会・紹介依頼等についての相談業務８件、コーディネート業務７件を実施した。
- なお、受託仕様書では相談業務 10 件、コーディネート業務７件を実施する内容となっていたため、業務費が減額変更となった。

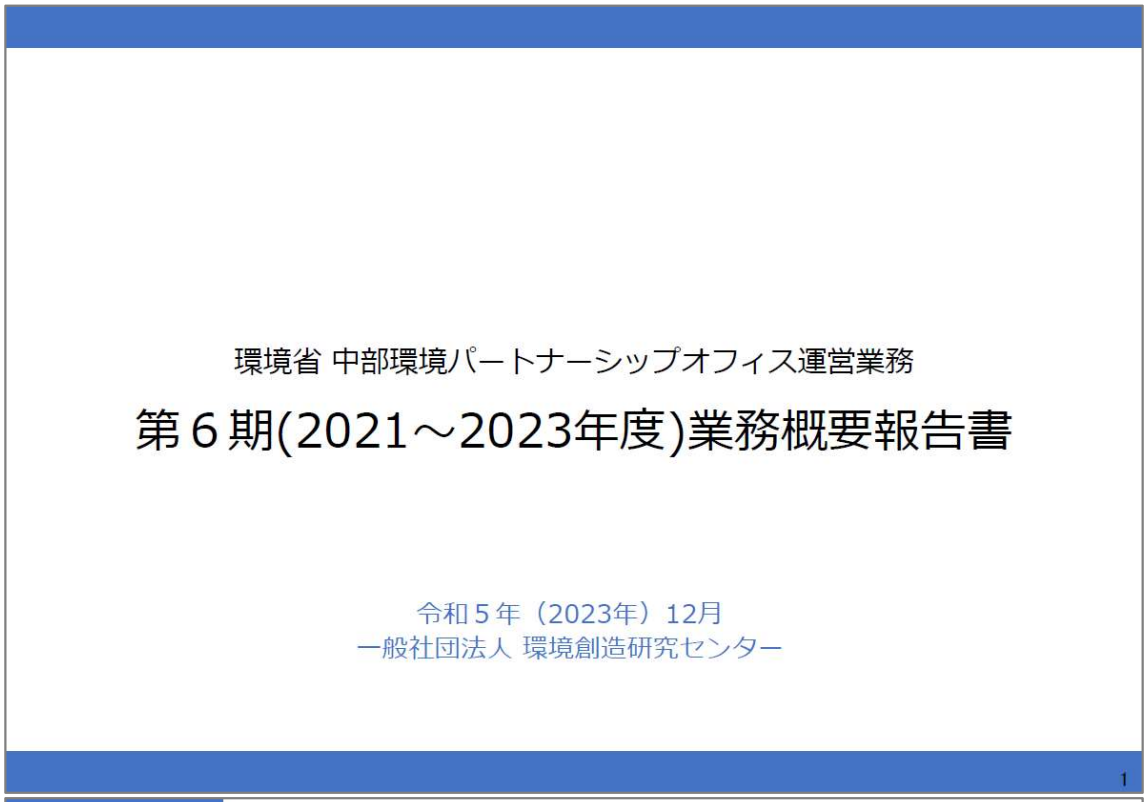
No.	受付日	依頼先区分	分野	依頼内容	相談業務	コーディネート業務		
							実施日	講師等
1	4月3日	民間	SDGs、地球温暖化、 エネルギー	ガスエネルギー館で行う環境学習講座の講師の紹介		①	6月18日	村瀬政彦氏（地球温暖化防止活動推進員）
2	4月6日	民間	ごみ・資源循環、3R、環境全般、SDGs	環境講座の講師としての登録希望	①			
3	4月11日	行政	地球温暖化、消費生活・衣食住、ごみ・資源循環3R	地球温暖化に関するクイズを行う環境講座の講師の紹介		②	5月13日	村瀬政彦氏（地球温暖化防止活動推進員）
4	4月17日	行政	地球温暖化、大気・大気汚染、自然への愛着	地球温暖化に関するクイズやゲームを行う環境講座の講師の紹介		③	9月16日	村瀬政彦氏（地球温暖化防止活動推進員）
5	4月18日	行政	地球温暖化、エネルギー、自然への愛着	緑のカーテン教室の講師の紹介		④	6月5日	堀田英夫氏（地球温暖化防止活動推進員）
6	6月16日	民間	ごみ・資源循環、3R、廃プラスチック問題	内海海岸の清掃活動（社内イベント）前に行う海のごみに関する講義の講師の紹介		⑤	9月10日	橋本寿朗氏（（一社）環境創造研究センター）
7	7月13日	行政	ごみ・資源循環・3R、山林に係る環境問題、都市に係る環境問題、リサイクルと環境問題、自分たちでできる環境問題	高齢者を対象とした「あいちシルバーカレッジ専門コース」の講師の紹介	②			
8	7月19日	小学校	生態系・生物多様性、自然への愛着、生命	環境学習（身近な生き物）の講師の紹介		⑥	11月29日	長谷川明子氏（ビオトープ・ネットワーク中部 会長）
9	7月20日	小学校	ごみ・資源循環、3R、生態系・生物多様性、水	環境学習の企画内容と講師の紹介	③			
10	8月17日	高校	大気・大気汚染、産業、健康	環境学習（グループワークを含む）の講師の紹介		⑦	11月27日	原 理史氏（中部大学中部高等学術研究所）
11	9月13日	行政	環境について楽しく学べるワークショップ	環境フェスティバルへの出展者の紹介	④			
12	9月15日	行政	ごみ・資源循環、3R、地球温暖化、消費生活・衣食住	環境学習講座の講師の紹介	⑤			
13	10月11日	民間	地球温暖化、エネルギー、SDGs	ガスエネルギー館で行う環境学習講座の講師の紹介	⑥			
14	2月27日	民間	自然への愛着、生態系・生物多様性、SDGs、生命、公害	テクノ中部で開催している環境教育プログラムの紹介	⑦			
15	2月28日	中学校	ごみ・資源循環、3R、自然への愛着、消費生活・衣食住	環境学習の講師の紹介	⑧			
合　計					8	7		

１０　第６期業務実施概要報告書／今後に向けて

ア 第６期業務実施概要報告書の作成・提出

- 本年度が EPO 中部運営業務の第６期３年目にあたることから、３カ年度の業務実施内容をとりまとめ、来期に向けた総括の整理等を行った「第６期業務実施概要報告書」を作成し、中部地方環境事務所へ 2023 年 12 月に（仕様書記載の提出期日までに）提出した。

【作成した第６期概要報告書】

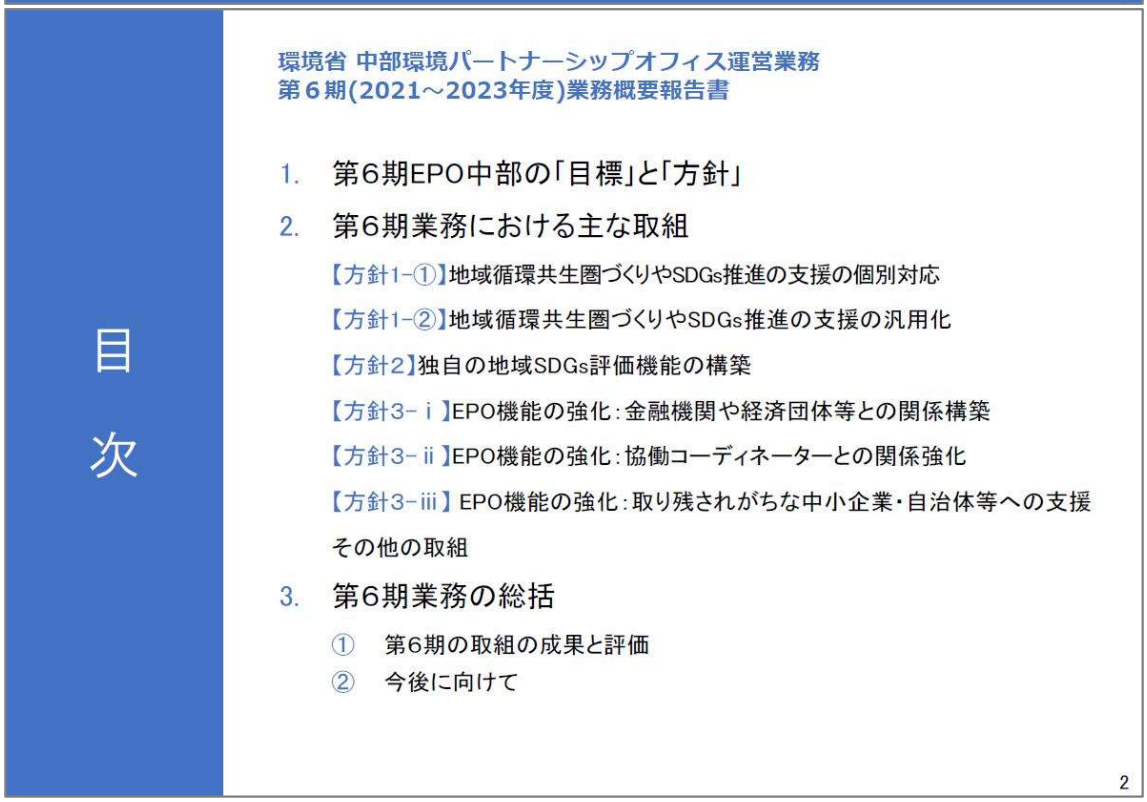


環境省 中部環境パートナーシップオフィス運営業務

第６期(2021～2023年度)業務概要報告書

令和５年（2023年）12月
一般社団法人 環境創造研究センター

1



目次

環境省 中部環境パートナーシップオフィス運営業務
第６期(2021～2023年度)業務概要報告書

1. 第6期EPO中部の「目標」と「方針」
2. 第6期業務における主な取組
【方針1-①】地域循環共生圏づくりやSDGs推進の支援の個別対応
【方針1-②】地域循環共生圏づくりやSDGs推進の支援の汎用化
【方針2】独自の地域SDGs評価機能の構築
【方針3-ⅰ】EPO機能の強化：金融機関や経済団体等との関係構築
【方針3-ⅱ】EPO機能の強化：協働コーディネーターとの関係強化
【方針3-ⅲ】EPO機能の強化：取り残されがちな中小企業・自治体等への支援
その他の取組
3. 第6期業務の総括
① 第6期の取組の成果と評価
② 今後に向けて

2

１．第６期EPO中部の目標と方針

3

第６期運営着手にあたり設定した3カ年の「目標」と「方針」

■目標

アフター・コロナ、地域循環共生圏づくり・SDGs活用が進みつつある中部エリアにおいて
新フェーズに対応し、地域が必要とする協働・ESD・SDGsの実装・実践のための支援と、
誰も取り残されないターゲット設定、EPO機能強化の関係構築に取り組みます。

■方針

1. 地域循環共生圏づくりやSDGs推進の支援にあたり、細やかな個別対応と、他の取組支援等への汎用化を行います。
   - ① 【個別対応】地域／取組が必要とする支援を細やかに汲み上げると共に、これまでの協働取組への支援の経験やツールを活用するなどして、事例ごとに個別に対応した支援を展開します。
   - ② 【汎用化】EPO中部が展開してきた支援内容の整理を行い、地域循環共生圏づくりやSDGs推進のためのプログラム化とその実装・実践に取り組みます。
2. SDGs推進・活用の取組において今後重要となる「目標設定」と「評価」について、第５期の作成ツール（活動見える化プログラム、SDGsチェックリスト等）や、外部団体によるSDGs指標ツール等を活用するなどして、独自の地域SDGs評価（SDGsの取組の現状等を評価する）機能の構築に取り組みます。
3. 上の1、2の支援や多様なステークホルダーの巻き込みにおいて、第５期の運営会議等での指摘事項や抽出された課題等に留意し、次のEPO機能の強化に取り組みます。
   - i. 資金調達に関わる主体（特に金融機関や経済団体等）との関係構築
   - ii. 地域実践者であるEPO中部・協働コーディネーターとの関係強化と新たなネットワークづくり
   - iii. 取り残されがちと指摘される中小の事業者・自治体等をターゲット設定した支援のあり方検討

4